

IBM

@server

iSeries

270/800/810 装置
ラック内の取り付けの手引き

バージョン 5





@server

iSeries

270/800/810 装置
ラック内の取り付けの手引き

バージョン 5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、35 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

当社は、国際エネルギースタートアッププログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタートアッププログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書は、IBM Operating System/400[®] のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 (製品番号 5722-SS1)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
270, 800, and 810
units in a rack installation instructions
Version 5

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

モデル 270、800、810 のラック内の取り付け	1
ラックの安全性に関する指示	1
はじめる前に	2
モデル 270、800、または 810 のラック内の取り付け	3
ラックの取り付け	3
ラック・シェルフの取り付け	8
システム装置をラックに取り付ける前の装置の取り外し	15
静電気の放電	16
カバーの取り外し	16
磁気ディスク機構の取り外し	17
テープ、CD-ROM、DVD 装置の取り外し	19
プロセッサ・アセンブリーの取り外し (モデル 270 のみ)	20

ラック内の装置の取り付け	22
以前に取り外した装置の取り付け	25
静電気の放電	25
磁気ディスク機構の取り付け	26
テープ、CD-ROM、DVD 装置の取り付け	27
プロセッサ・アセンブリーの取り付け (モデル 270 のみ)	28
カバーを取り付ける	31
ラック取り付けの完了	33

付録. 特記事項	35
商標	36
資料に関するご使用条件	37
コードに関する特記事項	37

モデル 270、800、810 のラック内の取り付け

このフィーチャーは、ユーザー自身で取り付けることができます。ただし、このフィーチャーの取り付けは、専門用語の知識があり、システムに関する経験のあるユーザーを想定しています。本書の手順では、装置を取り外した後、システム装置をラック上に安全に配置するには 3 人の作業員が必要です。本書を使用して、以下の作業を行うことができます。

- 前提条件の作業を実施する。
- システム装置カバーを取り外す。
- 新しいハードウェアを取り付ける。
- カバーを取り付ける。
- オペレーティング・システムの IPL を実行する。
- 新しいハードウェア構成を検査する。

ユーザーのジョブを完了し、システムのバックアップを取り、システムの初期プログラム・ロード (IPL) を実行して、ハードウェア構成を検査するために時間がさらに必要になります。

これらの作業はご自分で実行することもできますが、IBM(R) または正規販売業者に有料で依頼することもできます。不都合が生じた場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

ラックの安全性に関する指示

注意:

- ラック内部の温度が摂氏 40 度を超える場合は、装置をラック内に取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内に装置を取り付けしないでください。装置の通風口として使用される側面、前面、または背面が、ラックに直接接触しないようにしてください。
- ラック内に装置を取り付ける際、設置場所が平らでないため危険な状態にならないよう十分注意してください。ラックに安定器具が付いている場合は、この装置をアンインストールまたは取り外す前に、安定器具を使用してラックを固定してください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないよう、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の必要電力を確認します。
- 電源コンセントの配線に誤りがあると、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に高い電圧がかかり危険になりかねません。感電事故防止のため、電源コンセントを正しく配線しコンセントの接地端子を正しく接地する（アース）工事はユーザーの責任で行っていただきます。
- ラック格納機構によって設計と構成が異なるため、サード・パーティーのラックに IBM 装置を取り付ける場合や IBM ラックにサード・パーティーの装置を取り付ける場合は注意が必要です。ラックに装置を安全に取り付けることができ、ラック格納装置の冷却機能、安定性、および構造上の安全性が十分であることをユーザーの責任で確認してください。 (RSFTC247)

注意:

ここで説明する指示は、システムをスライドさせたり引き出したりしたときにラック自体が倒れないよう、各ラックの前面底部にラック安定器具を取り付けるためのものです。安定器具を正しく取り付けるまで、システム装置を取り付けたりスライドさせたりしないでください。ラック自体およびラック内のシステム装置を移動させるときは、十分に注意してください (RSFTC063)

注意:

この部品または装置の重量は 32 kg から 55 kg です。この部品または装置を安全に持ち上げるには 3 人の作業員が必要です。(RSFTC205)

注意:

ラックが安定していないと、装置を拡張したときに装置の重量によりラック自体が倒れる可能性があります。装置をラックから引き出す前に、ラックの前面底部にラック安定器具が取り付けられているかどうか確認してください。

一度に複数の装置を引き出さないでください。一度に複数の装置を引き出すと、ラック自体が倒れる可能性があります。(RSFTC224)

はじめる前に

取り付け作業または交換作業を始める前に、以下の作業を行います。

- __ 1. 取り付けの場合、および可能であれば交換の場合も、使用しているシステム (オペレーティング・システム、ライセンス・プログラム、データなど) の最新バックアップが手元にあることを確認します。PTF を最後に適用した後でオペレーティング・システムおよびライセンス・プログラムのバックアップをとってあれば、そのバックアップでかまいません。
- __ 2. 手順全体に目を通して、一連の手順を理解してください。
- __ 3. 中型のマイナス・ドライバーを用意します。
- __ 4. 部品が正しくなかったり、欠落している、あるいは外観上損傷がある場合には、以下にご連絡ください。
 - 認可されたサービス提供元
 - 米国の場合、IBM® 営業担当員
 - 米国以外の場合、次の Web サイトを参照して、サービス番号とサポート番号を確認してください。
<http://www.ibm.com/planetwide>
- __ 5. 論理区画に新しいハードウェアを取り付ける場合は、それを正常に行うための要件を計画および理解する必要があります。Information Center の『論理区画』を参照してください。その後、この指示を参照してください。
- __ 6. 取り付け中に不都合が生じた場合は、認可されたサービス提供元または特約店に連絡してください。
- __ 7. 新しいフィーチャーを取り付ける前に、PTF 前提条件があるかどうかを確認してください。次の Web サイトにアクセスします。
http://www-912.ibm.com/s_dir/s1kbase.NSF/s1kbase
 - a. 「All Documents」を選択します。
 - b. 「General Information」を選択します。
 - c. 「Offerings」を選択します。
 - d. 「Feature Prerequisites」を選択します。
 - e. 「Customer Installation Features Prerequisites」を選択します。
 - f. この製品のフィーチャー番号と OS/400® リリースを見つけて、前提条件を調べます。

モデル 270、800、または 810 のラック内の取り付け

これらの説明中の図は、ご使用のシステム装置と少し異なる場合もあります。ただし、作業を実行する手順は同じです。

ラック内に新しい 270、800、または 810 装置を取り付けますか？

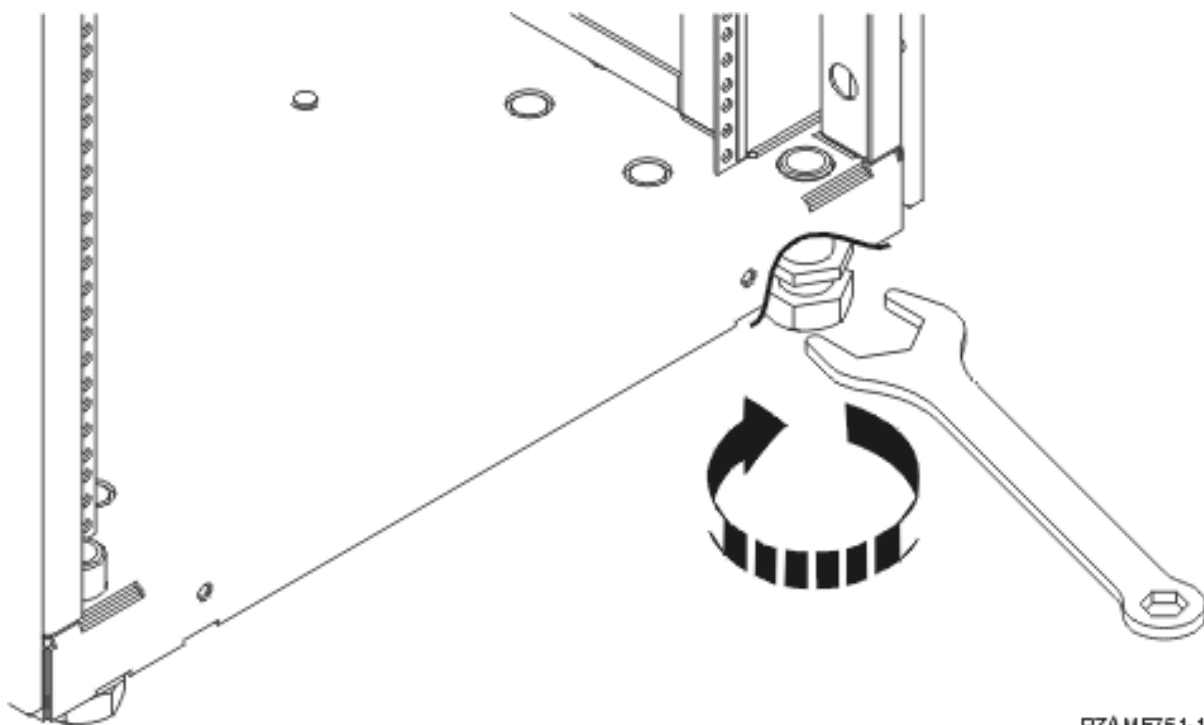
__ はい: 3 ページの『ラックの取り付け』に進みます。

__ いいえ: 次のステップに進みます。

- __ 1. 既存の装置をアップグレードしてラック内で装置を実行する場合、システム (オペレーティング・システム、ライセンス・プログラム、およびデータ) の最新バックアップが手元にあることを確認します。
- __ 2. システム装置に論理区画が設けられている場合、*iSeries Information Center* の『論理区画の管理』で、論理区画を持つシステムの電源遮断に関する説明を参照してください。
- __ 3. システムに統合 xSeries アダプター (IXA) が取り付けられている場合は、OS/400 オプションを使用してシャットダウンしてください。
- __ 4. すべてのジョブが完了していることを確認します。
- __ 5. すべてのジョブが完了したら、iSeries コマンド行で `pwrdownsys *immed` と入力して、Enter キーを押します。
- __ 6. iSeries の電源が完全に遮断されたら、すべての PC をシステム装置から外します。システム装置に接続されているすべての装置 (印刷装置や表示装置など) の電源をオフにします。
- __ 7. すべての電源コード・プラグ (印刷装置や表示装置などの) を電源コンセントから取り外します。
- __ 8. システム装置と拡張機構の電源コード・プラグを電源コンセントから取り外します。

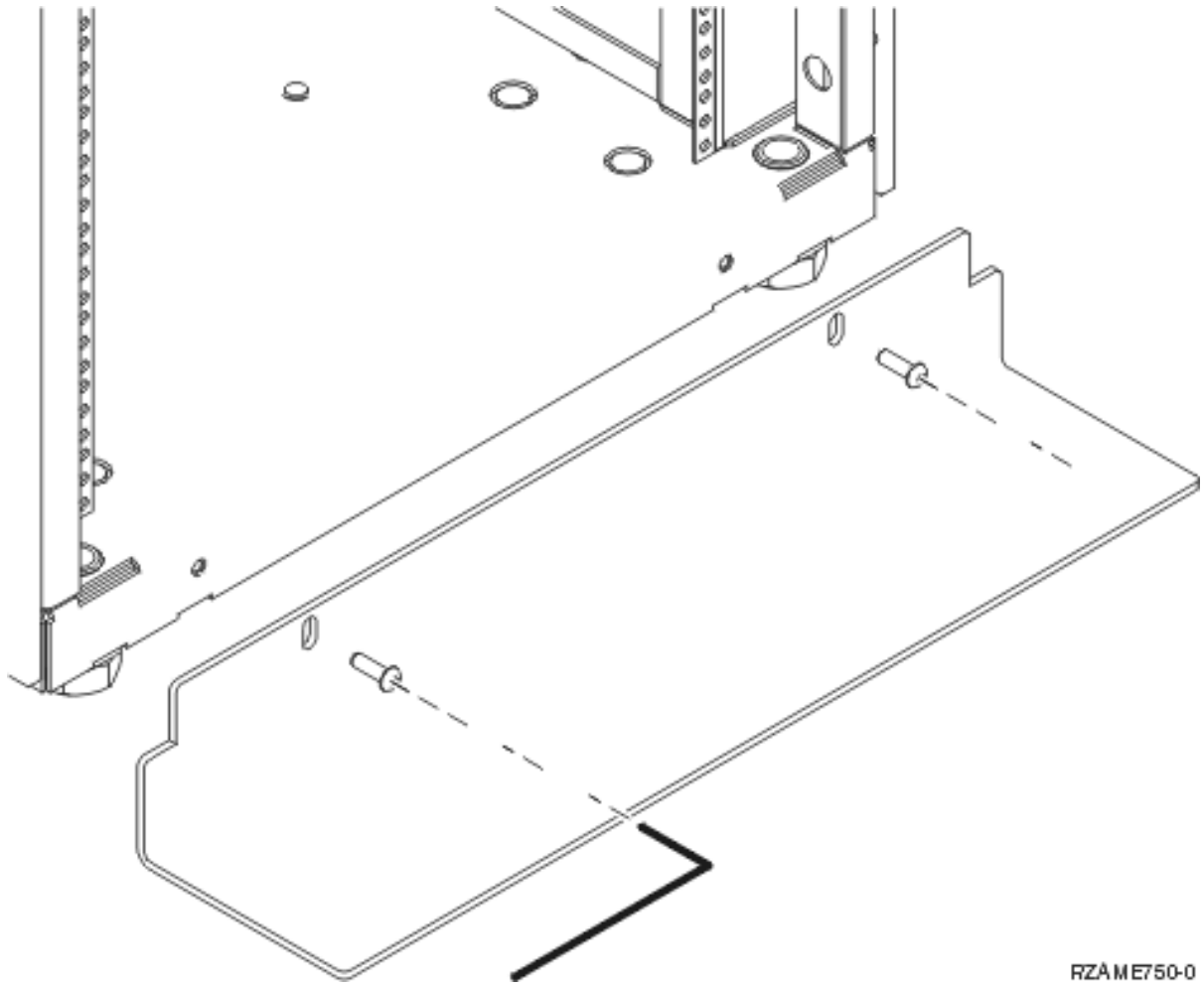
ラックの取り付け

- __ 1. 出荷されたすべてのボックスを開きます。
- __ 2. ラックに付属している、ラックのアンパックに関する指示をすべて実行します。既存のラックに装置を取り付ける場合は、ステップ 7 (5 ページ) に進みます。
- __ 3. 注文時の計画で指定した場所に、空のラックを配置します。
- __ 4. 付属のレンチを使用して、前面と背面の安定器具を下げます。



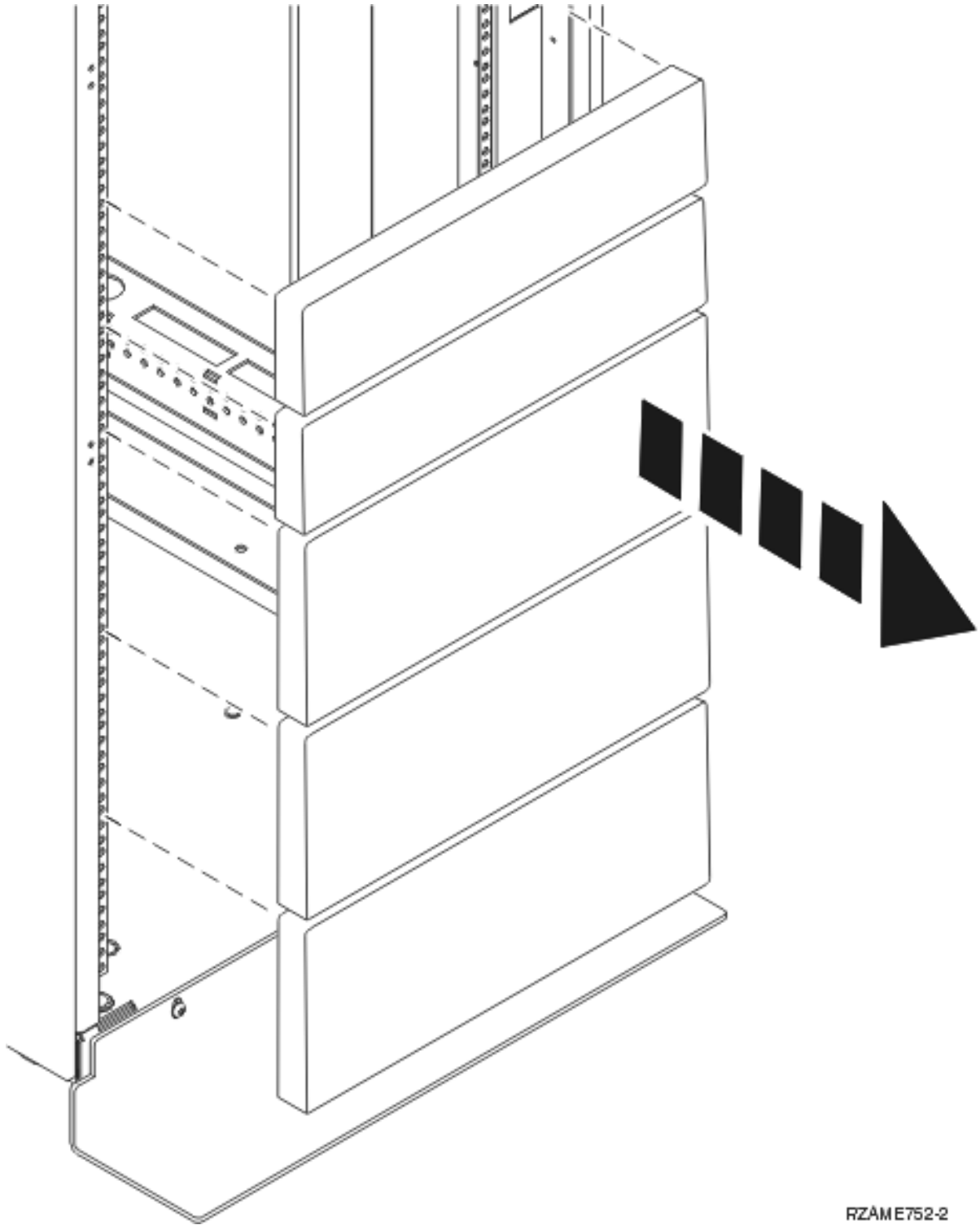
FZAME751-1

- 5. 注意:
ここで説明する指示は、システムをスライドさせたり引き出したりしたときにラック自体が倒れないよう、各ラックの前面底部にラック安定器具を取り付けるためのものです。安定器具を正しく取り付けまで、システム装置を取り付けたりスライドさせたりしないでください。ラック自体およびラック内のシステム装置を移動させるときは、十分に注意してください (RSFTC063)
- 6. ラックの前面に先端プレートを取り付けます。



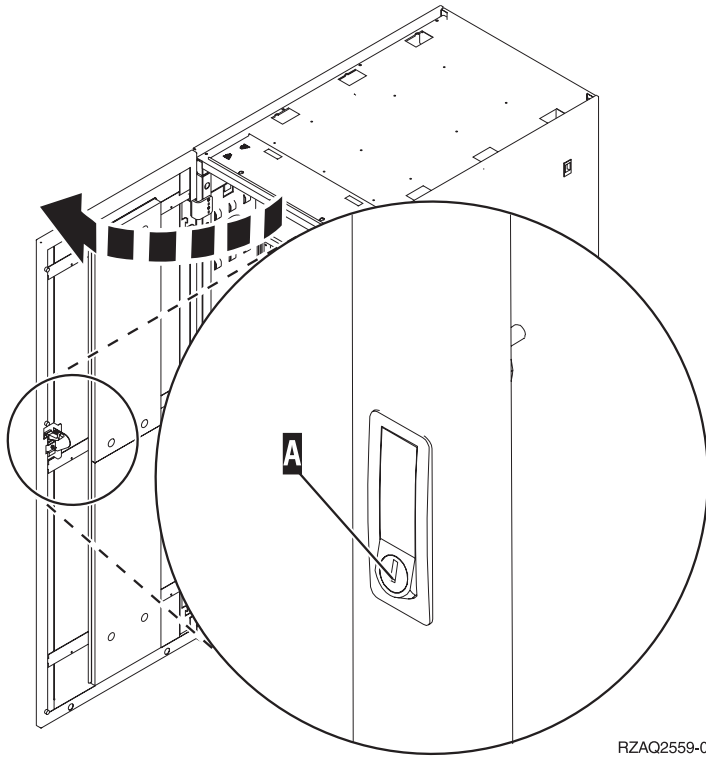
RZAME750-0

__7. ラック内の格納部を動かせるよう、フィラー・パネルを取り外します。



RZAME752-2

__ 8. 背面の扉を開きます。

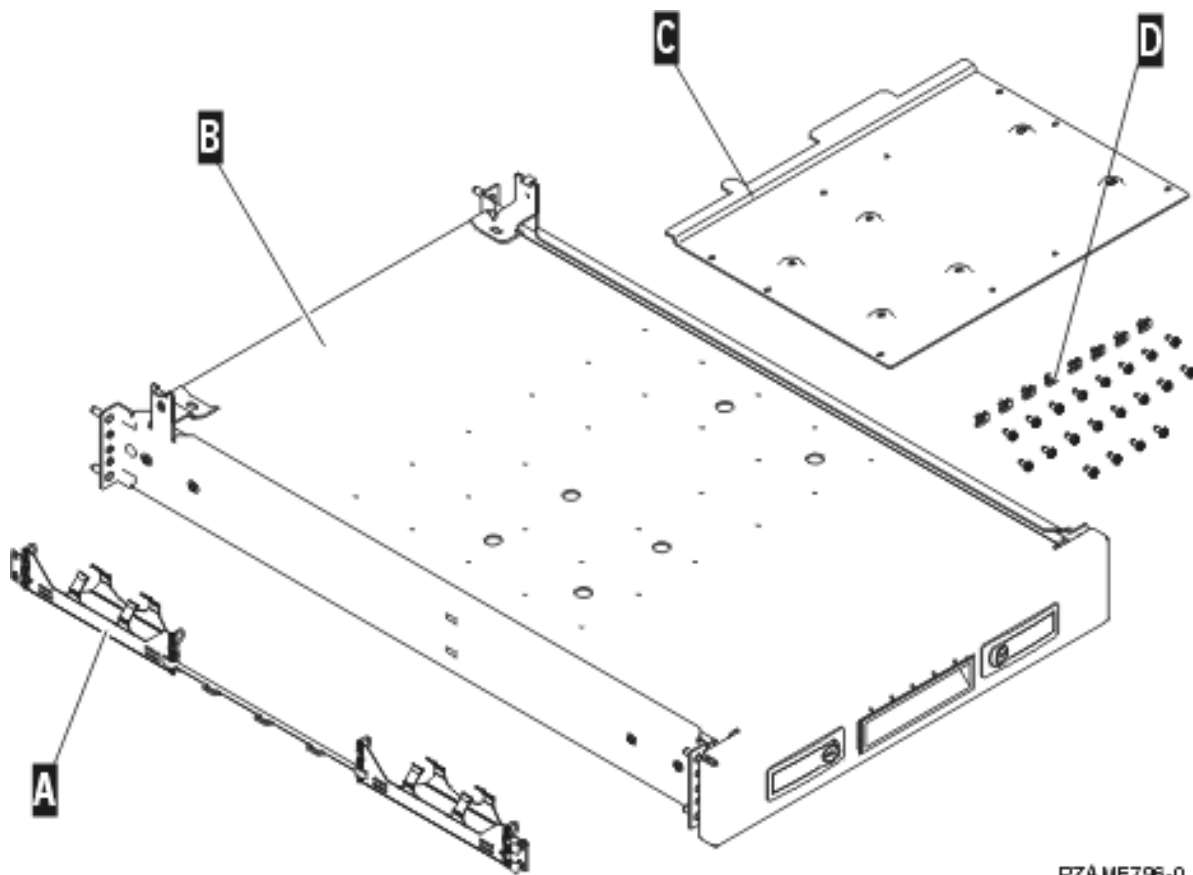


RZAQ2559-0

- __ 9. ラックに取り付ける装置の配置位置を決定します。大きくて重い装置はラックの低い段に配置してください。

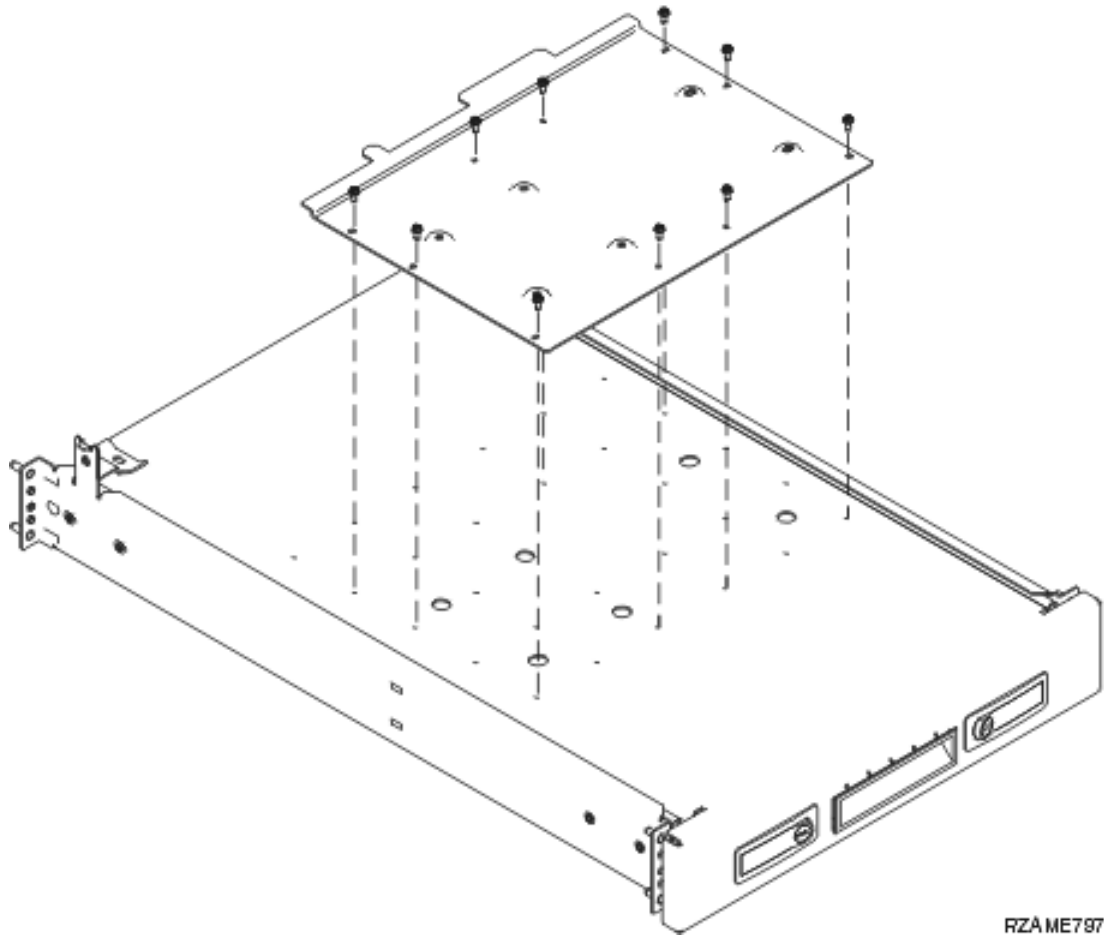
ラック・シェルフの取り付け

- 1. ケーブル管理アーム・アセンブリー **A**、レール・アセンブリー付きラック・シェルフ **B**、アダプター・プレート **C**、クリップとねじ **D** を手元に用意します。ねじはいくらか余分に用意されています。



RZAME796-0

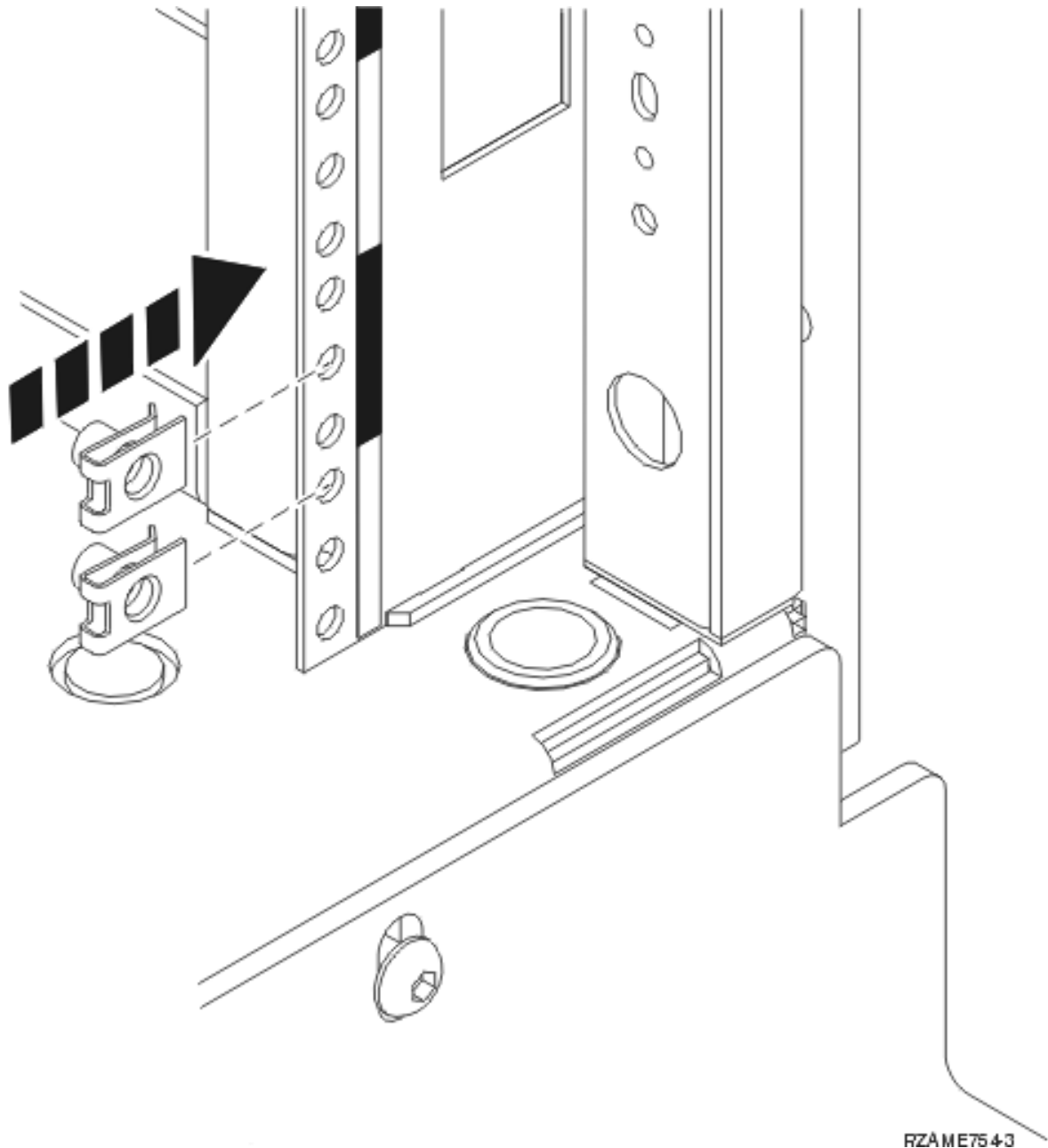
- 2. アダプター・プレートをシェルフに取り付けます。
- a. 270、800、または 810 シェルフ・プレートを取り付けるための 10 個のねじの位置を確認します。
 - b. 付属のツールを使用して、図のようにプレートを取り付けます。



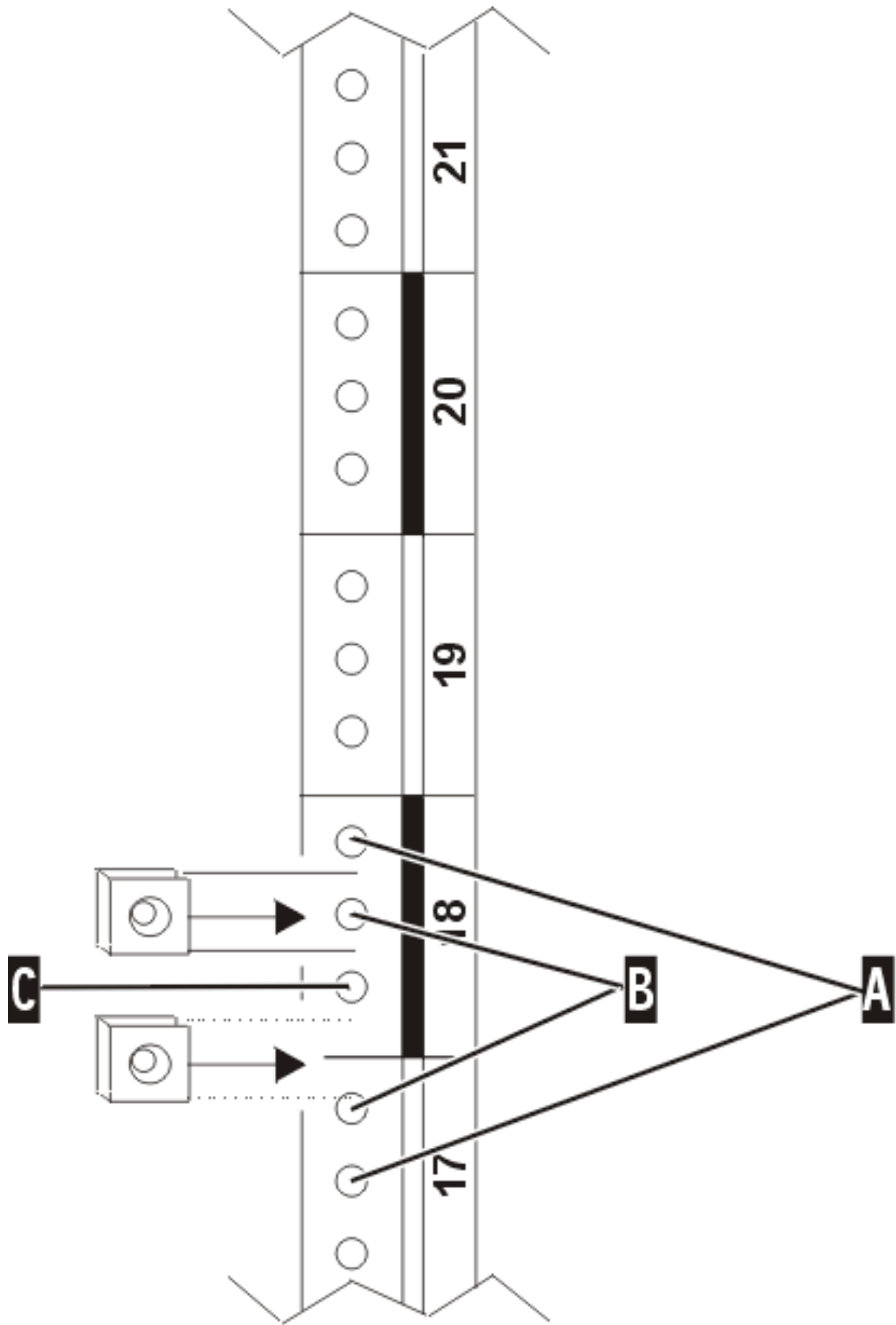
RZAME797-0

— 3. ラックの前面にクリップを 4 個取り付けます。

ラックの下段に装置を取り付ける場合、クリップを EIA セクション 1 および 2 に取り付けます。



上段に取り付ける場合は、クリップを EIA セクション 17 および 18 に取り付けます。

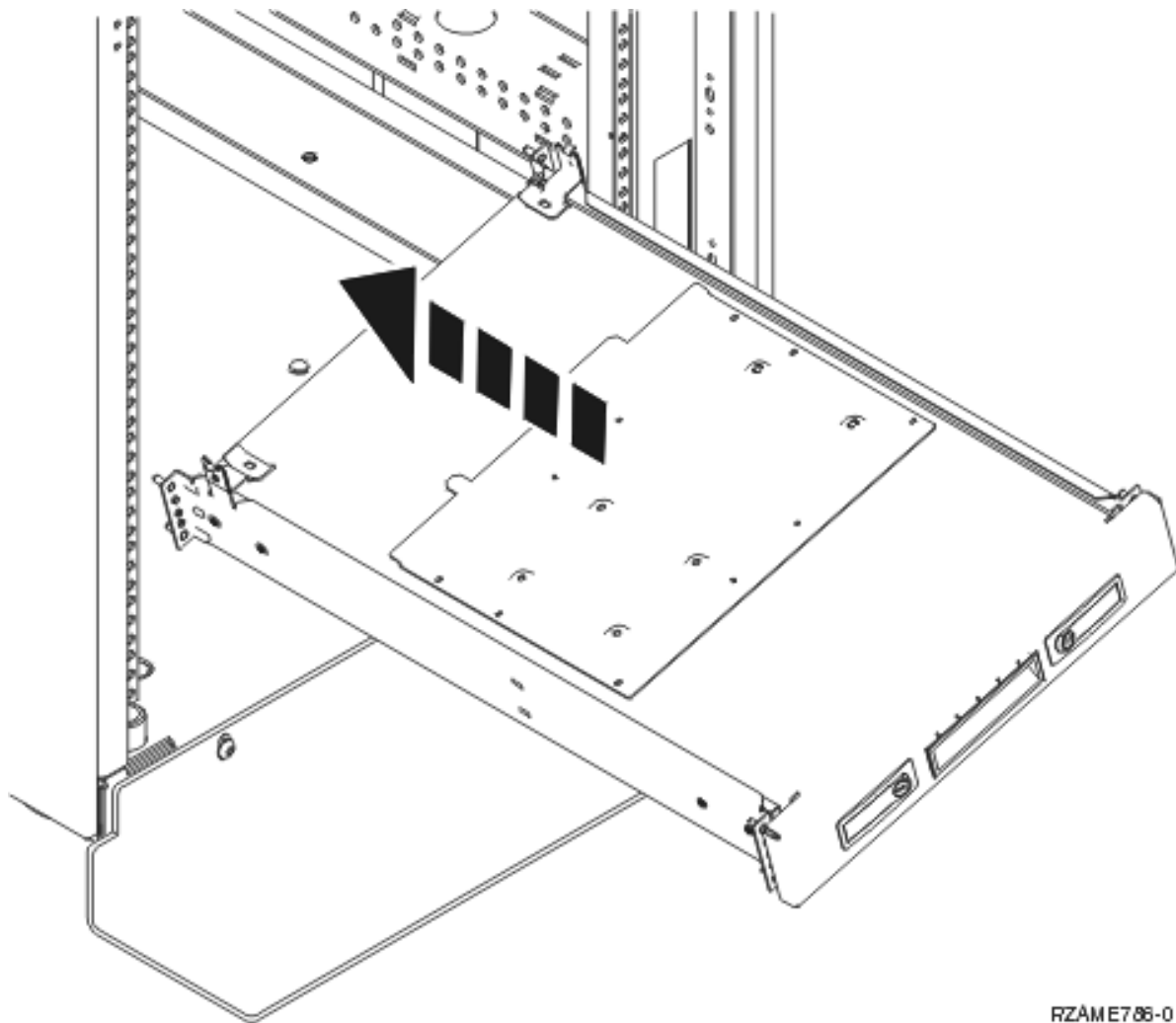


R7AMF787-*

- A** ガイドピン
- B** クリップ

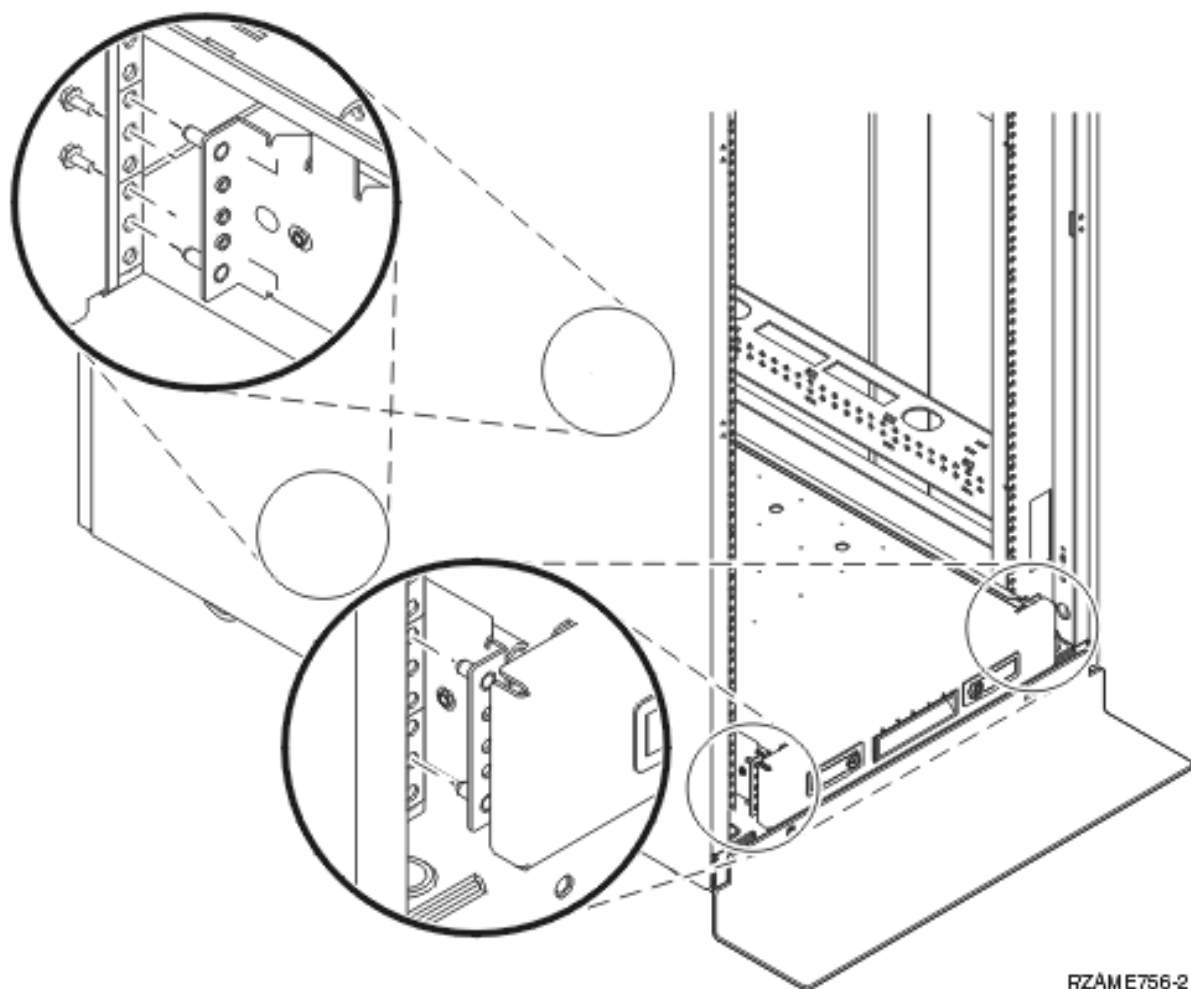
C 空

- 4. シェルフとレール・アセンブリーを取り付けるには 2 人の作業員が必要です。ラックの前面と背面に 1 人ずつ配置します。
- 5. シェルフとレール・アセンブリーを持ち上げ、ラックの前面から挿入します。前面に正しく挿入するには、シェルフを少し傾ける必要があります。



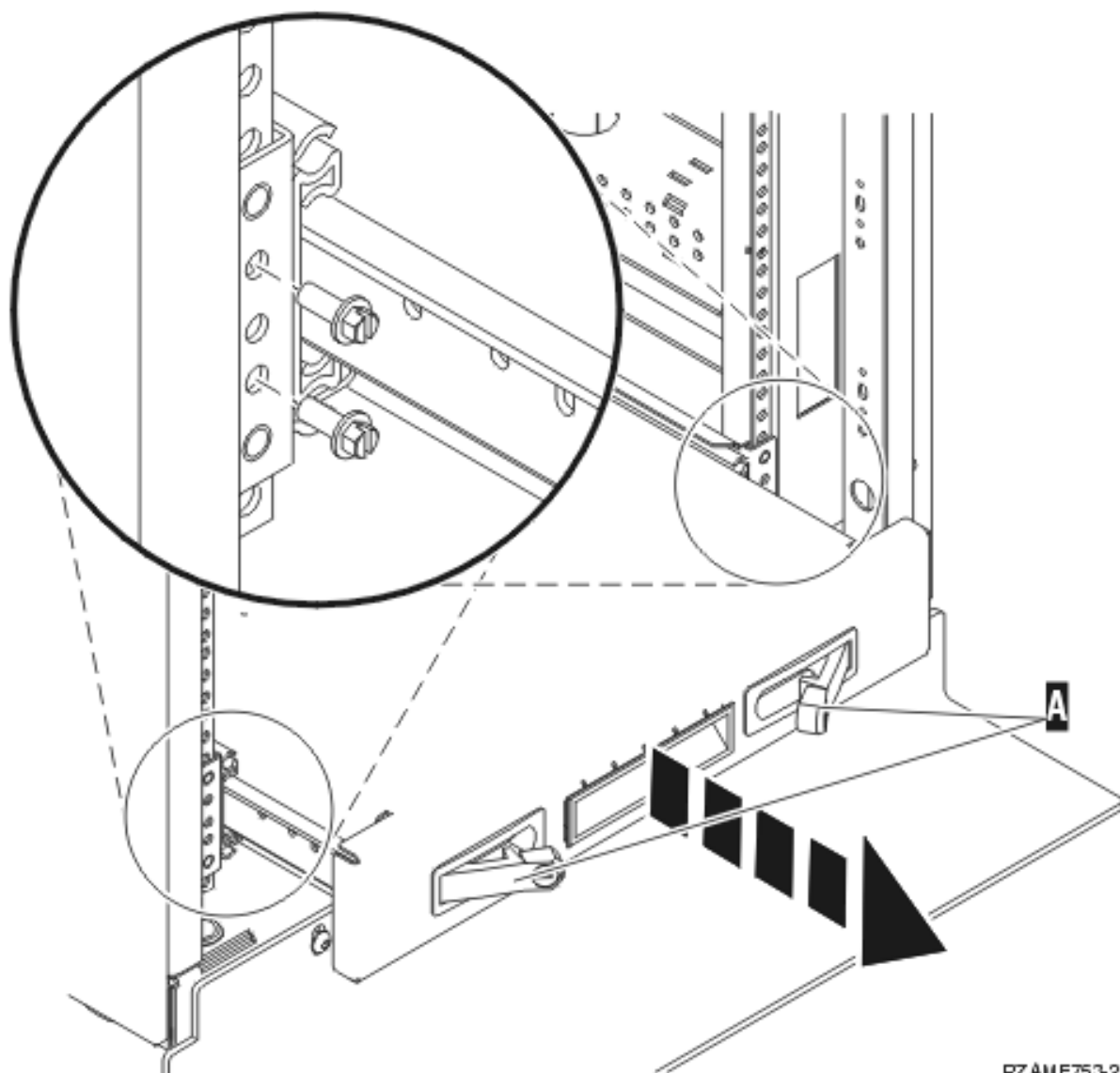
RZAME786-0

- 6. 背面フレームに適切な穴があいたレール・アセンブリー上に、位置を合わせてガイドピンを取り付けます。



FZAME756-2

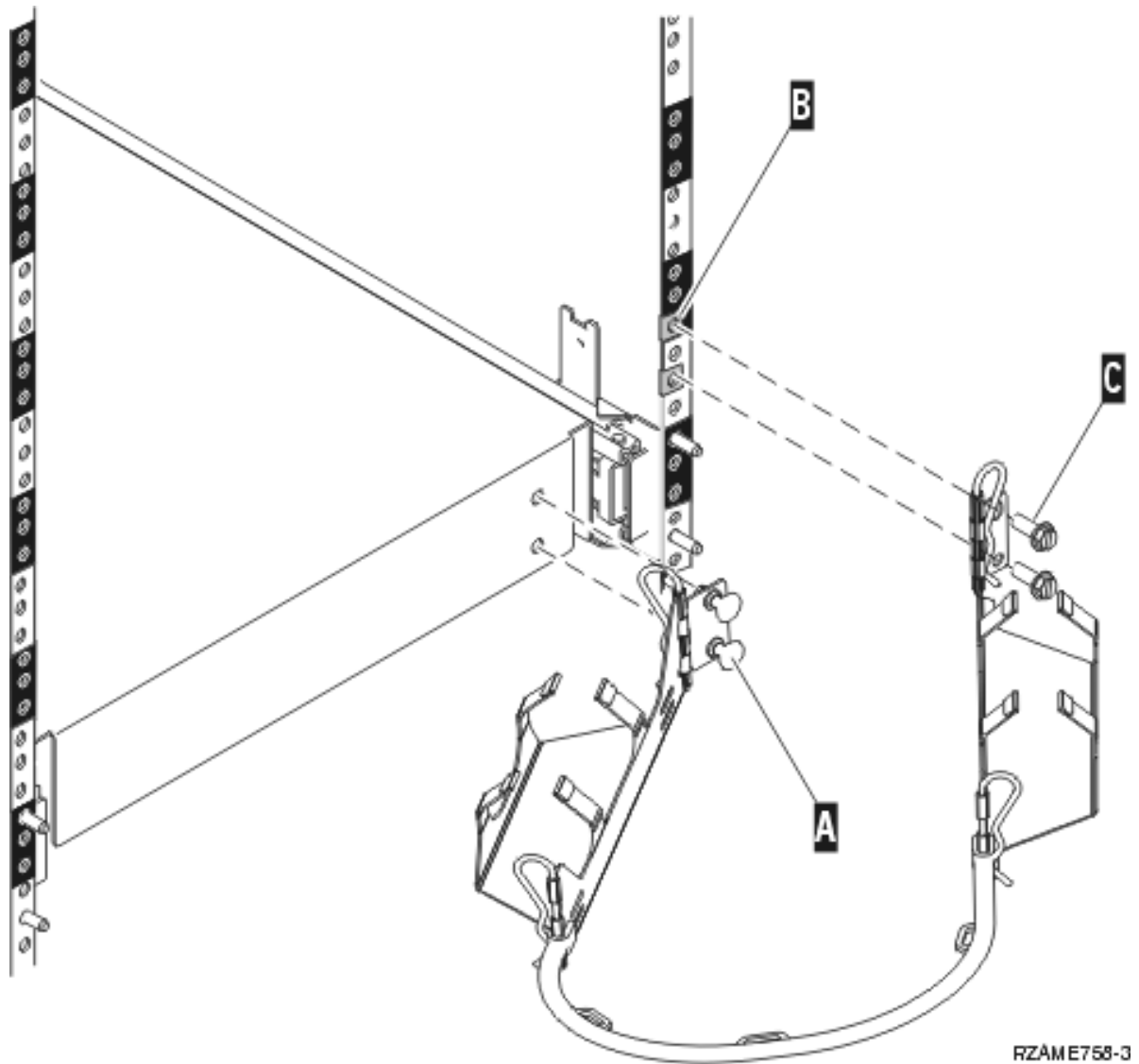
- 7. 前面フレームに適切な穴があいたレール・アセンブリー上に、位置を合わせてピンを取り付けます。
- 8. 背面フレームの各側にねじを 2 つずつ取り付けてシェルフ・アセンブリーを固定します。
- 9. シェルフ **A** のラッチを開き、シェルフを部分的に引き出します。図のように前面フレームの各側にねじを 2 つ取り付けてシェルフ・アセンブリーを固定します。



RZAME753-2

注: ねじを正しく取り付けられない場合は、以前に取り付けたクリップの場所が正しいかどうか確認してください。

- 10. シェルフをラックに挿入します。
- 11. ラッチを押して、シェルフをラックに固定します。
- 12. ケーブル管理アーム・アセンブリーの位置を確認します。
- 13. ラッチを押し、ケーブル管理アームをシェルフの背面 **A** に固定します。



- __ 14. 背面のフレーム **B** に 2 つのクリップを取り付けます。
- __ 15. クリップが取り付けられている位置に 2 つのねじ **C** を取り付け、ケーブル管理アームのもう一方の端を背面フレームに固定します。
- __ 16. ラック・シェルフとレール・アセンブリーの取り付けが完了しました。
- __ 17. 次のステップに進みます。


システム装置をラックに取り付ける前の装置の取り外し

装置をラック・シェルフに安全に取り付けるために、指示に従って装置からデバイスを取り外します。取り外したデバイスは、損傷しないように静電気保護バッグに入れます。

システム装置の重量を適正に保つために装置を取り外した後、システム装置をラック・シェルフに安全に配置するには 3 人の作業員が必要です。

次のステップに進みます。

静電気の放電

静電気の放電により装置が損傷しないように、使い捨てリスト・バンドを着用します。  ビデオをご覧ください。 フォイルの粘着側を、装置のフレームの未塗装面に取り付けます。

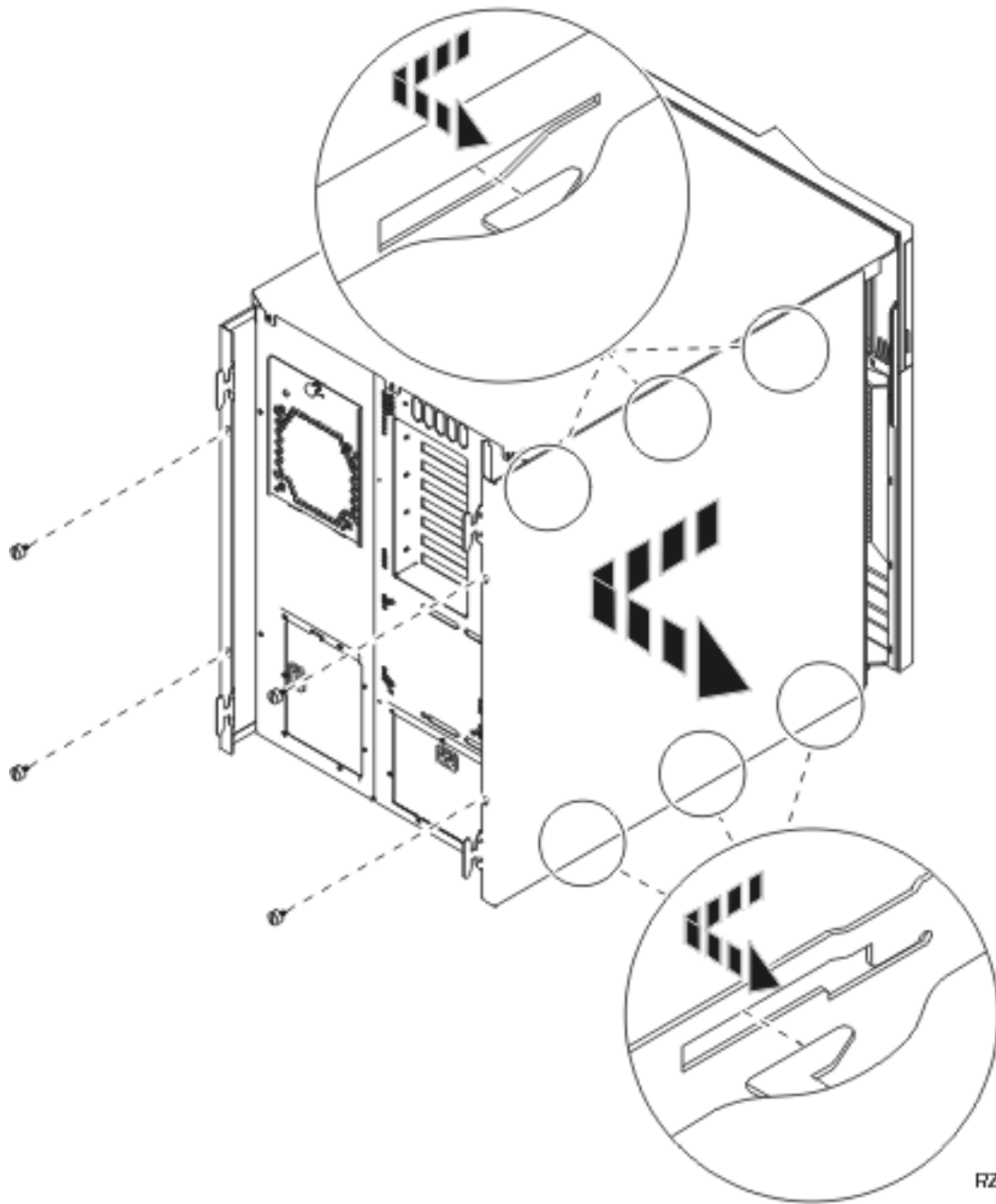
注:

1. リスト・バンドなしで使用する場合と同じ予防措置を行います。 2209 使い捨てリスト・バンドは、静電気を抑制するためのものです。このバンドを着用することによって、電気機器の使用時または作業時の感電の危険が増えることも、減ることもありません。
2. リスト・バンドを広げる時は、末端に付いている銅フォイルの裏打ちシールを取り除きます。
3. 銅フォイルを、システム装置のフレームの露出した、塗装されていない金属面に貼り付けます (アース)。
4. 取り外した装置を、損傷しないように静電気保護バッグに入れます。

カバーの取り外し

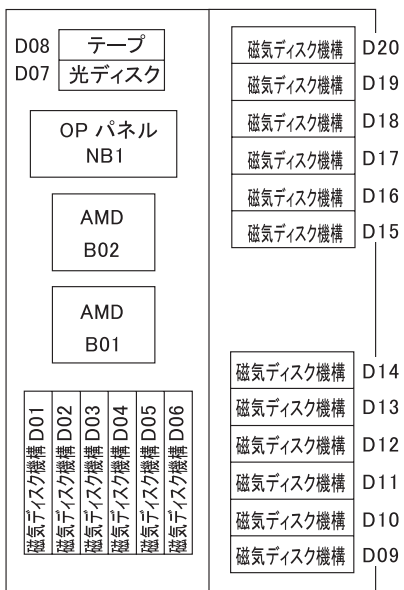
前面カバーおよび側面カバーを取り外します。

- __ 1. カバーの両端をつかみ、カバーを手前に引いて、前面カバーを取り外します。
- __ 2. システム装置の背面にある 2 つのつまみねじと 2 つのスロット保持ねじを緩めて外し、側面カバーを取り外します。各カバーを、前面から背面に向かって、止まるまでスライドさせます。
- __ 3. カバーを引き出します。



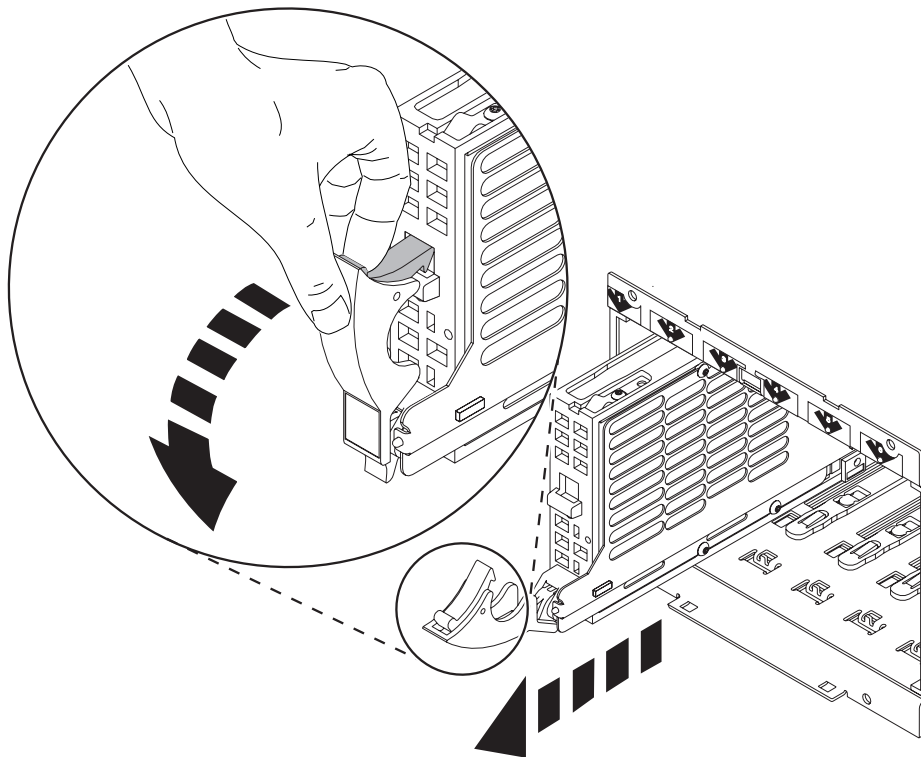
磁気ディスク機構の取り外し

- 1. 磁気ディスク機構は、システム装置の前面にあります。
- 2. 磁気ディスク機構のカバーを取り外します。ラッチをつまんで引き出します。
- 3. 取り出した磁気ディスク機構を後で同じ位置に戻すことができるよう、**磁気ディスク機構の名前と位置をラベル付けしておきます。** 例: D01。最初に D01 を取り出す。



RZAME760-0

- __ 4. 磁気ディスク機構を取り外す前に、ハンドルをつまんで手前に引き出して下げます。ハンドルが完全に下がっていない場合、磁気ディスク機構をスライドさせてシステム装置から取り出すことはできません。
- __ 5. 磁気ディスク機構アセンブリーの底面を支えて、完全に取り出します。ハンドルをつかんで磁気ディスク機構を持たないでください。



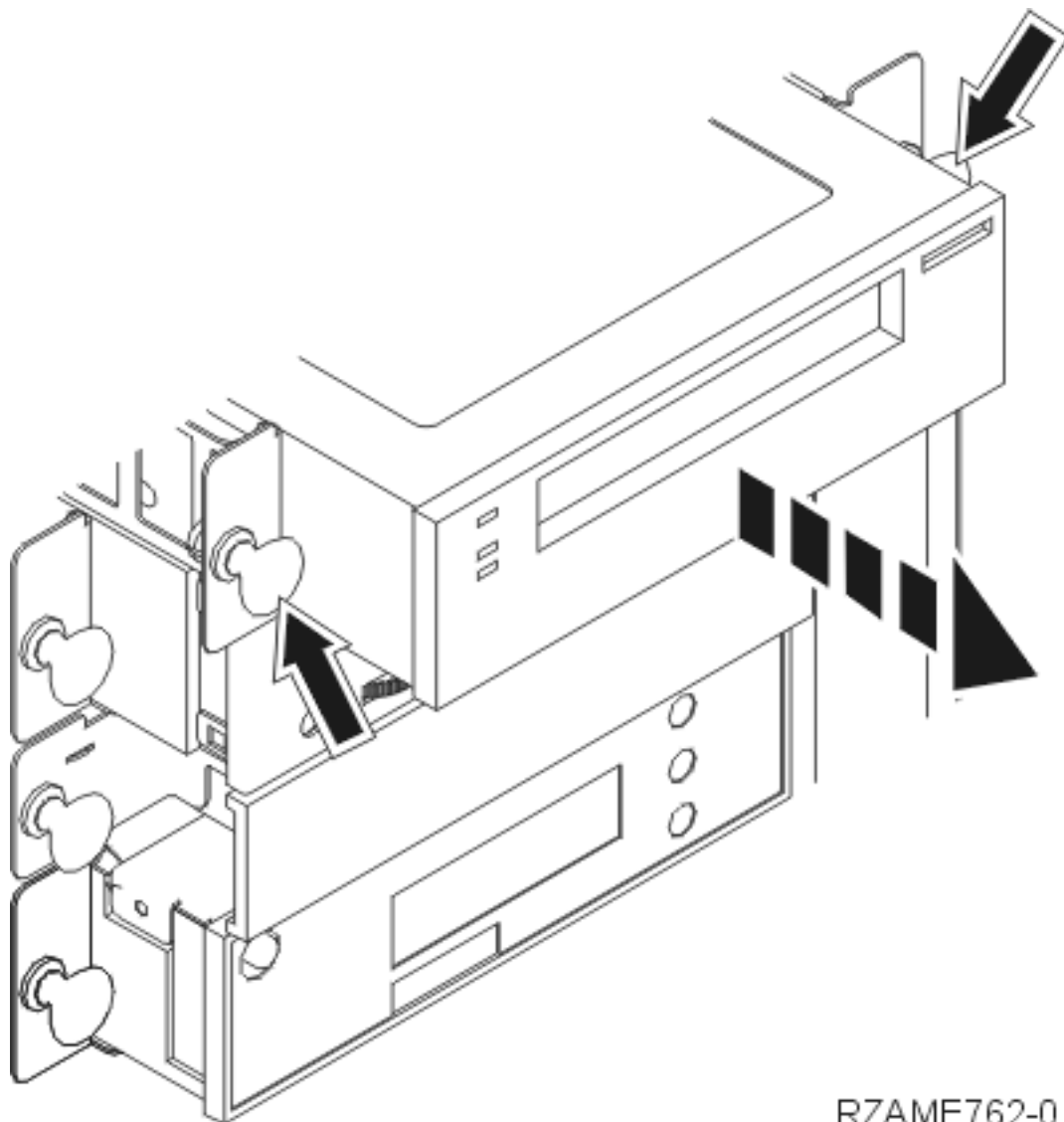
RZAG6504-1

- __ 6. 磁気ディスク機構にラベルを貼り、静電気保護バッグに入れます。
- __ 7. 上記の作業をシステム内のすべての磁気ディスク機構について繰り返します。

__ 8. 次のステップに進みます。

テープ、CD-ROM、DVD 装置の取り外し

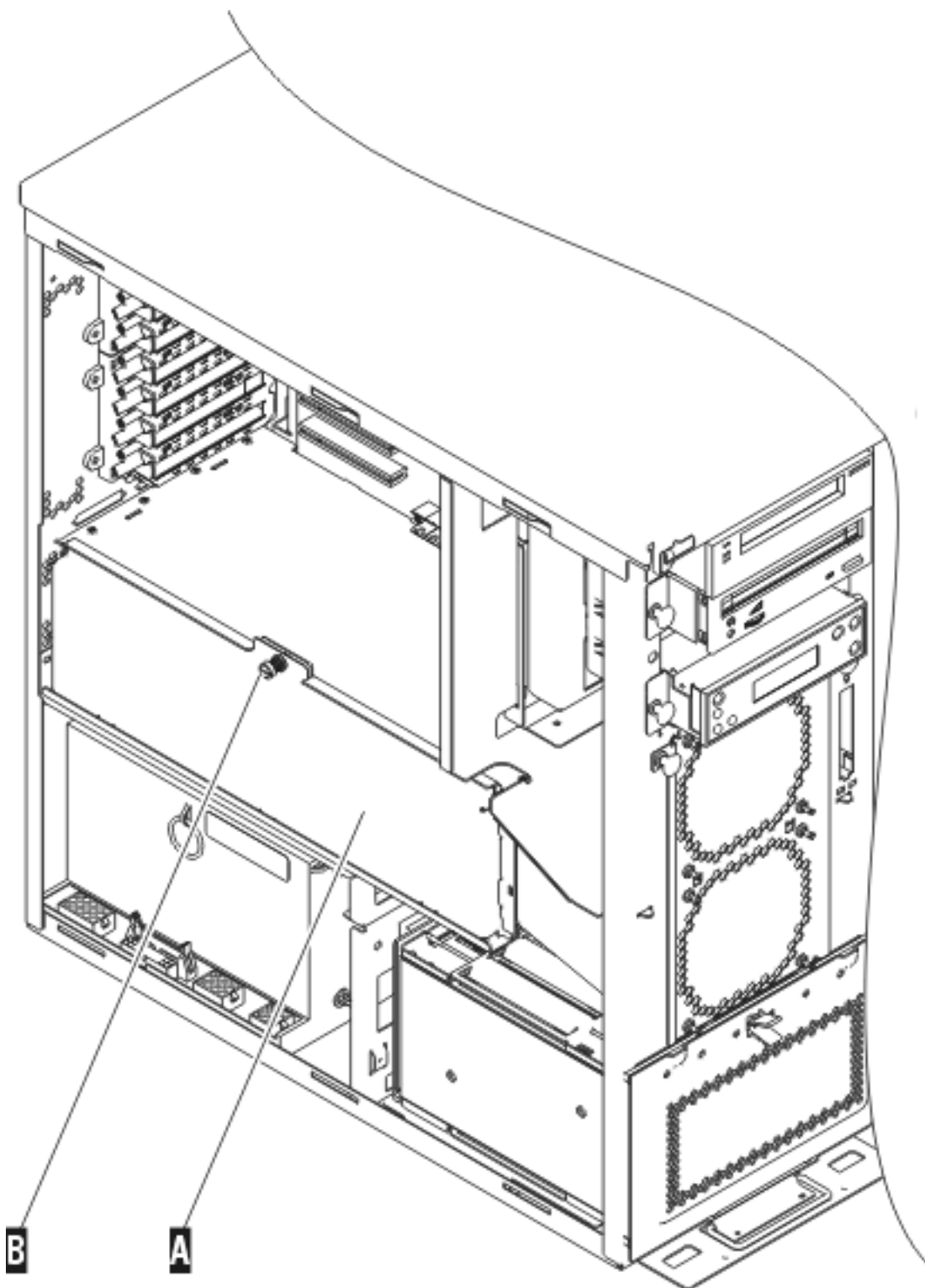
- __ 1. 装置の背面から、信号ケーブル (大きいコネクタ) と電源ケーブル (小さいコネクタ) を抜きます。これらのコネクタは、システム装置の側面から操作します。
- __ 2. システム装置フレームに装置を固定している 2 つのラッチを、止まるまで引き出します。



- __ 3. 装置を前にスライドさせて、システム装置から取り出します。コントロール・パネルの上のフィルター・ブランクを取り外さなければならない場合があります。
- __ 4. 装置を静電気保護バッグの中に入れます。

プロセッサ・アセンブリの取り外し (モデル 270 のみ)

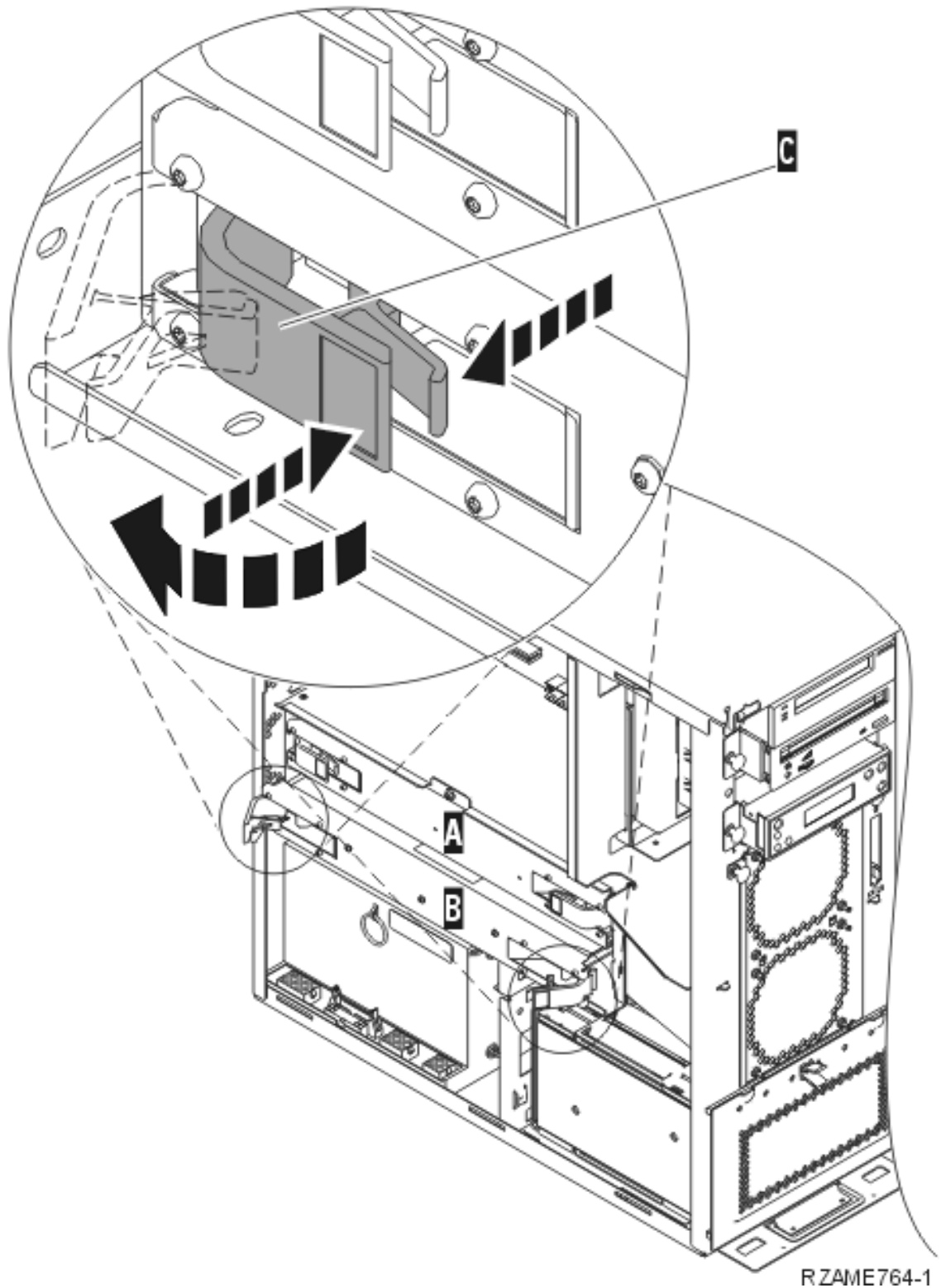
__ 1. アクセス・カバー **A** を取り外し、ラッチ **B** を引き出します。



RZAME763-1

__ 2. 以下の手順でプロセッサ・カード・アセンブリー **A** および **B** を取り外します。

__ a. 2 つのラッチ **C** を、カード・アセンブリーが少し「飛び出る」まで外します。



- __ b. 両方のラッチを同時に引いて、カード・アセンブリをシステム装置から取り外します。
- __ c. カード・アセンブリを静電気保護バッグの中に入れます。
- __ 3. 上記の作業を、すべてのプロセッサ・カード・アセンブリを取り外すまで繰り返します。

ラック内の装置の取り付け

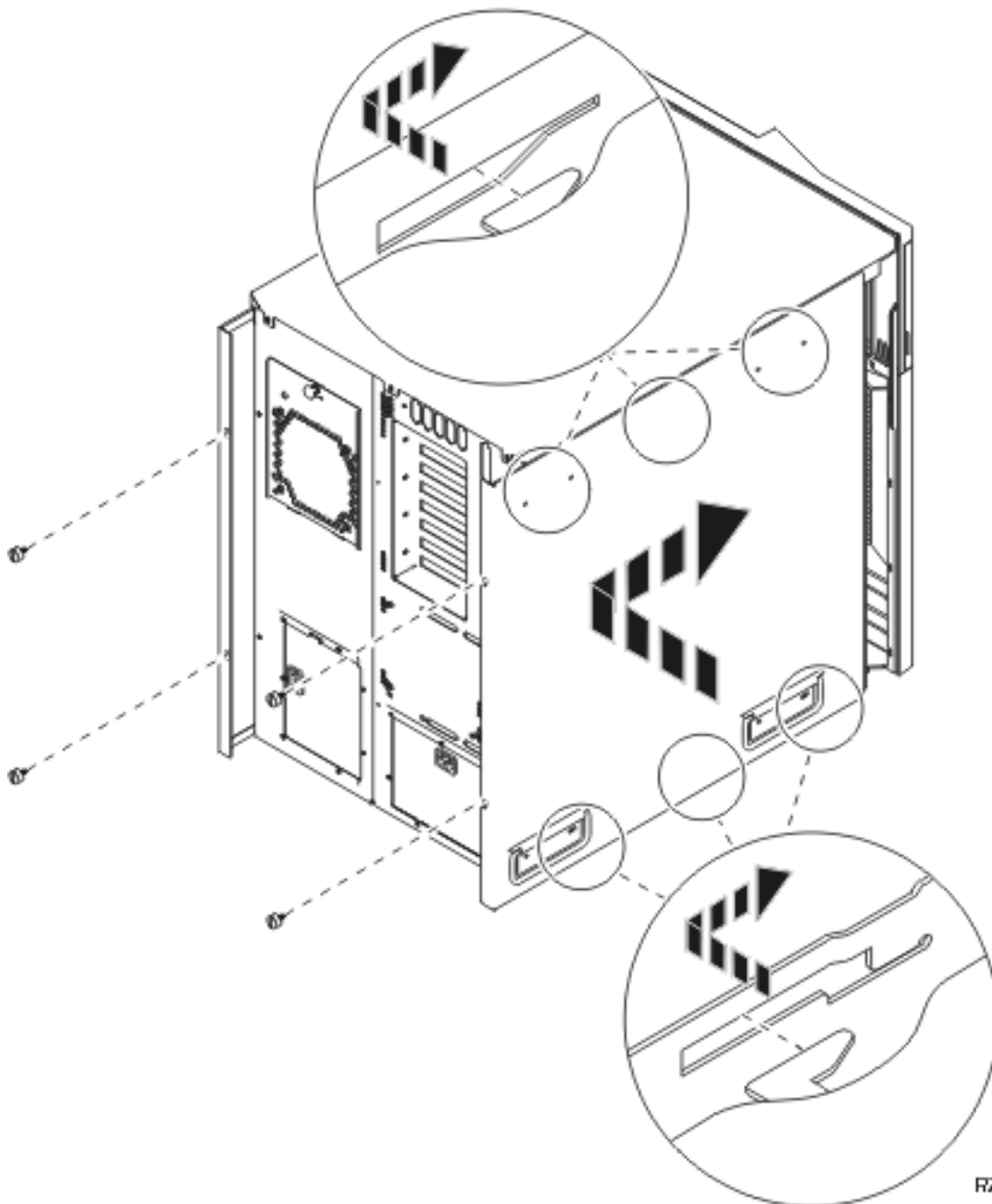
システムを持ち上げてラックに取り付け、シェルフに配置するには、以下の作業を行います。

— 1. 注意:

ラックが安定していないと、装置を拡張したときに装置の重量によりラック自体が倒れる可能性があります。装置をラックから引き出す前に、ラックの前面底部にラック安定器具が取り付けられているかどうか確認してください。

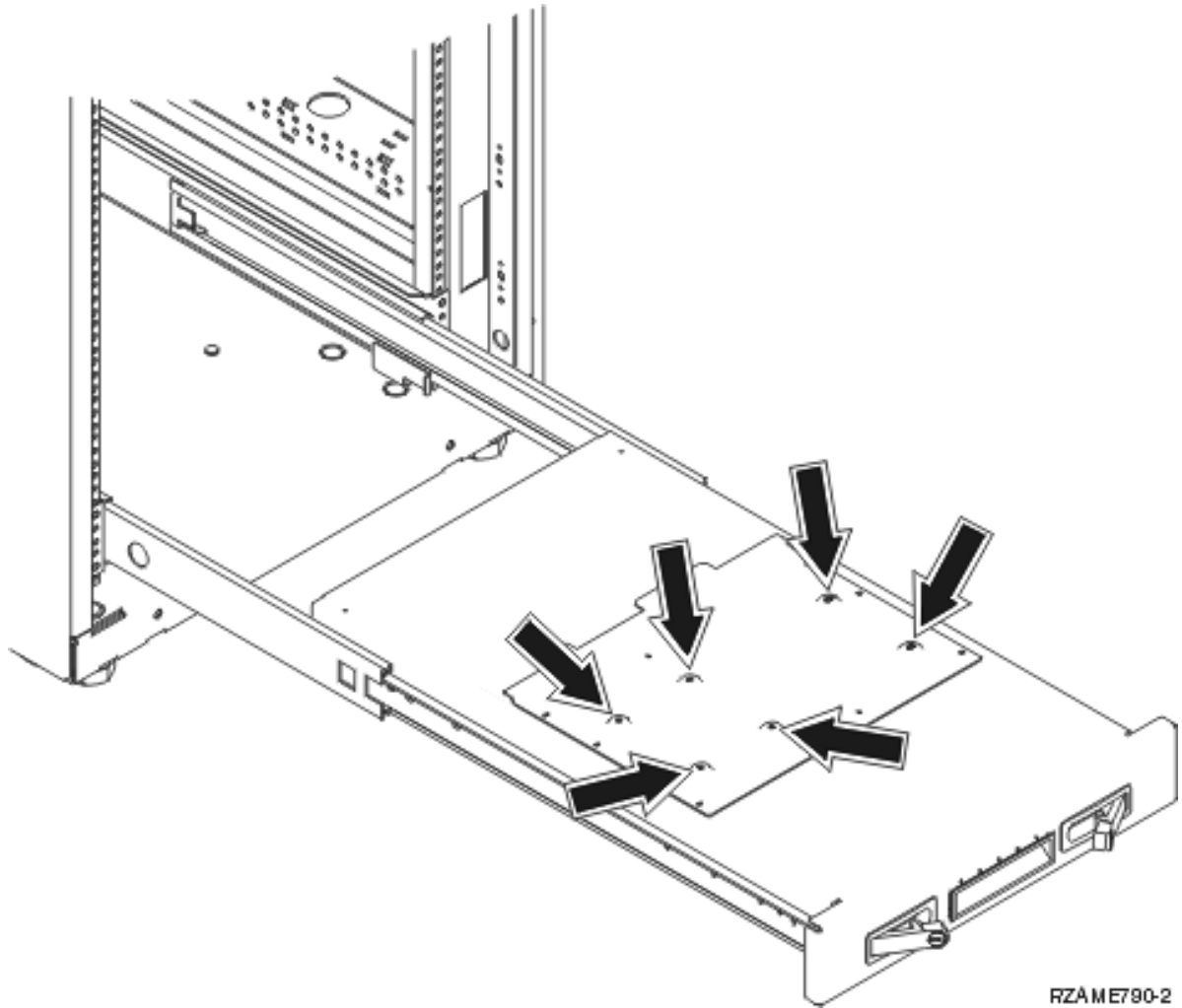
一度に複数の装置を引き出さないでください。一度に複数の装置を引き出すと、ラック自体が倒れる可能性があります。(RSFTC224)

— 2. 持ち上げハンドル付きの側面カバーを取り付けます。

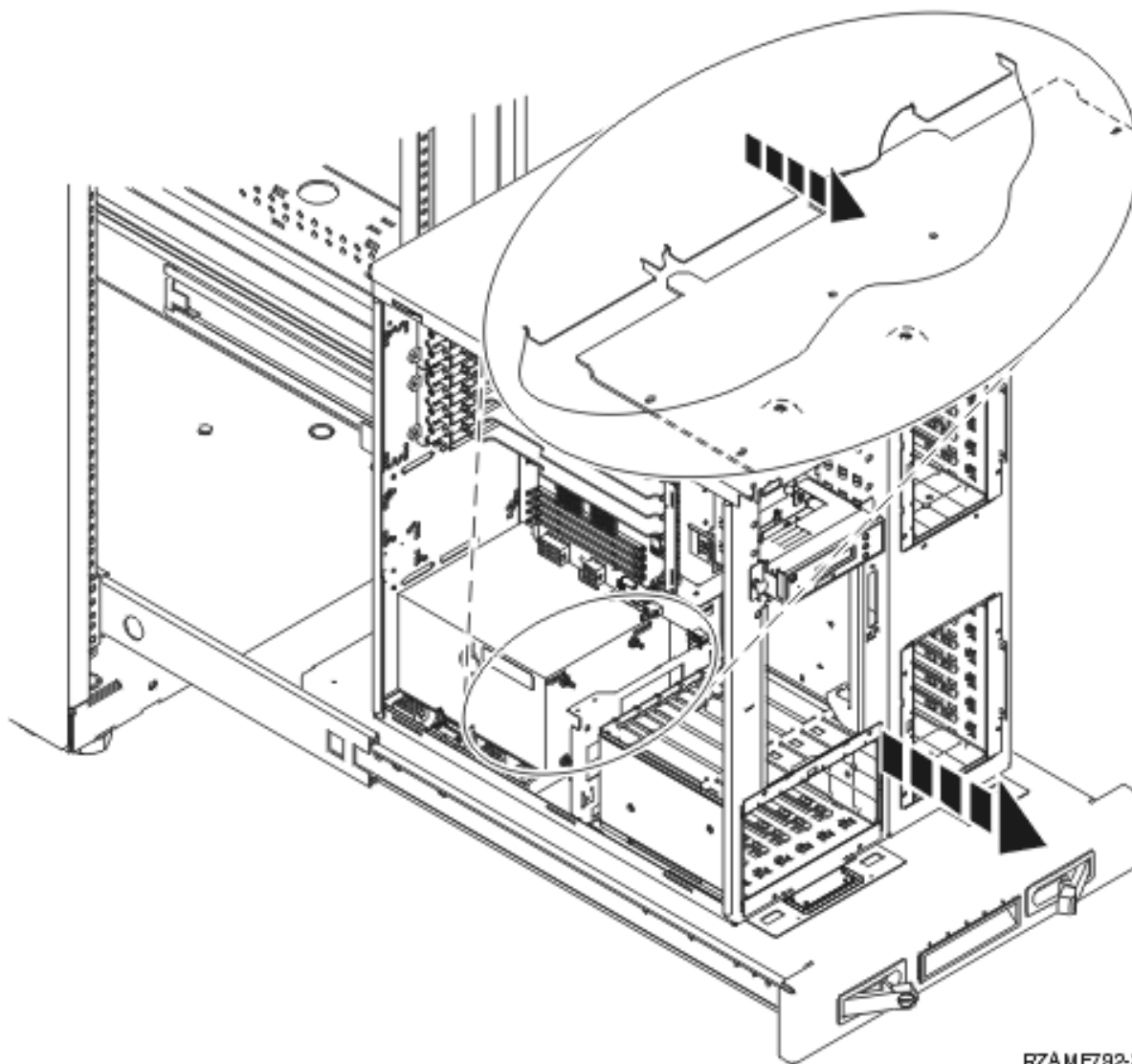


RZAME791-1

- 3. 注意:
この部品または装置の重量は 32 kg から 55 kg です。この部品または装置を安全に持ち上げるには 3 人の作業員が必要です。 (RSFTC205)
- 4. ラック・シェルフを、ロックがかかるまで完全に引き出します。
- 5. シェルフに取り付けられたアダプター・プレートで、装置をシェルフに安全に接続するためのねじ用の 6 つの穴の位置を確認します。

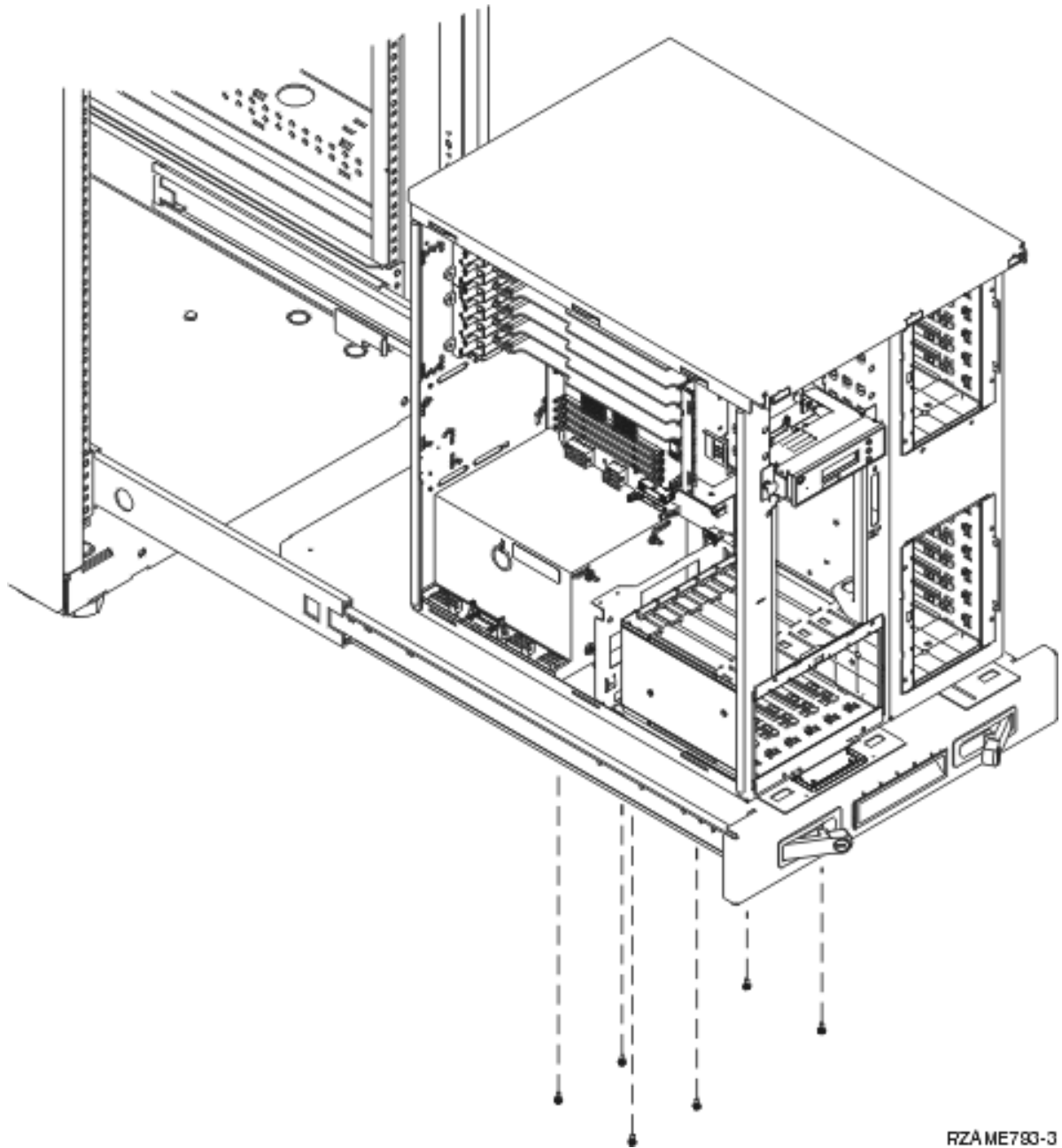


- 6. 装置を持ち上げて、シェルフの背面に向かって配置します。
- 7. 各側にあるハンドルを使用して、背面から前面に向かってシステム装置を止まるまでスライドさせます。



RZAME792-3

- 8. ラック・シェルフの底面から 6 個のねじを取り付け、装置をシェルフに固定します。




- __ 9. 持ち上げハンドル付きの側面カバーを取り外します。
- __ 10. 次のステップに進みます。

以前に取り外した装置の取り付け

以前に取り外した装置を取り付けるには、以下の作業を行います。

静電気の放電

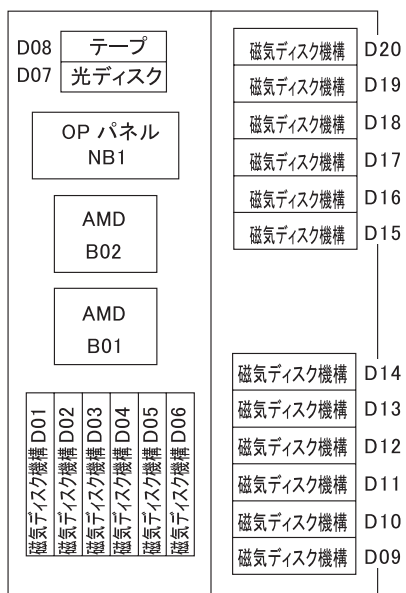
静電気の放電により装置が損傷しないように、使い捨てリスト・バンドを着用します。  ビデオをご覧ください。 フォイルの粘着側を、装置のフレームの未塗装面に取り付けます。

注:


1. リスト・バンドなしで使用する場合と同じ予防措置を行います。 2209 使い捨てリスト・バンドは、静電気を抑制するためのものです。このバンドを着用することによって、電気機器の使用時または作業時の感電の危険が増えることも、減ることもありません。
2. リスト・バンドを広げる時は、末端に付いている銅フォイルの裏打ちシールを取り除きます。
3. 銅フォイルを、装置のフレームの露出した、塗装されていない金属面に貼り付けます (アース)。

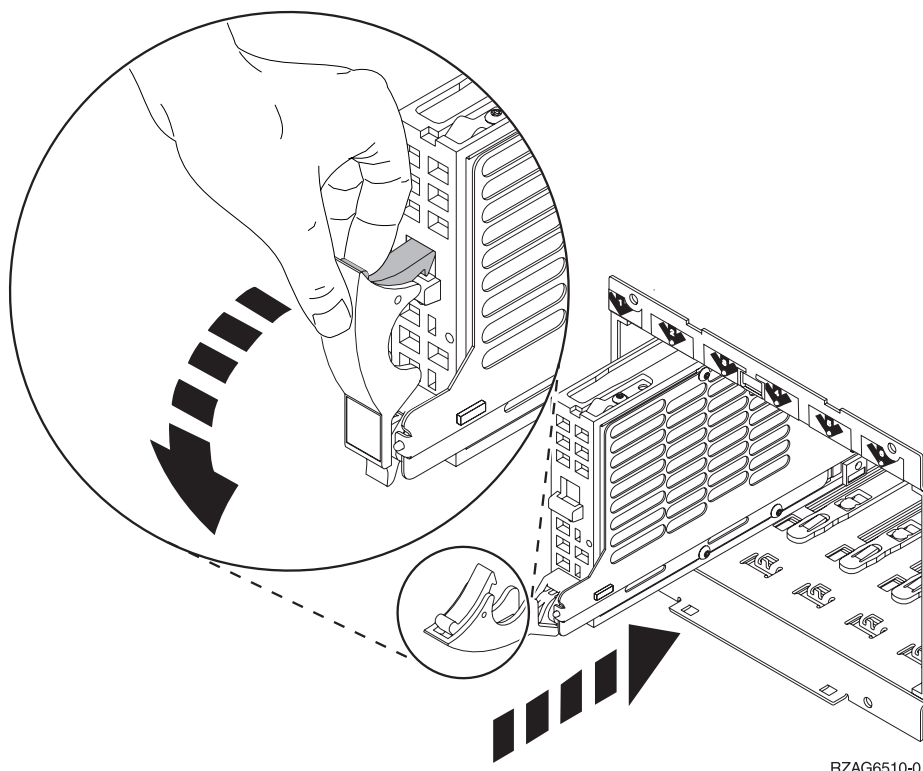
磁気ディスク機構の取り付け

1. 磁気ディスク機構は、システム装置の前面にあります。
2. ディスク・ドライブの位置を見つけ、磁気ディスク機構のラベルを確認します。磁気ディスク機構は、取り外したのと同じ場所に必ず配置してください。



RZAME760-0

3. 磁気ディスク機構を取り付ける前に、ハンドルをつまんで手前に引き出して下げます。ハンドルが完全に下がっていない場合、磁気ディスク機構をスライドさせて装置に入れることはできません。  ビデオをご覧ください。

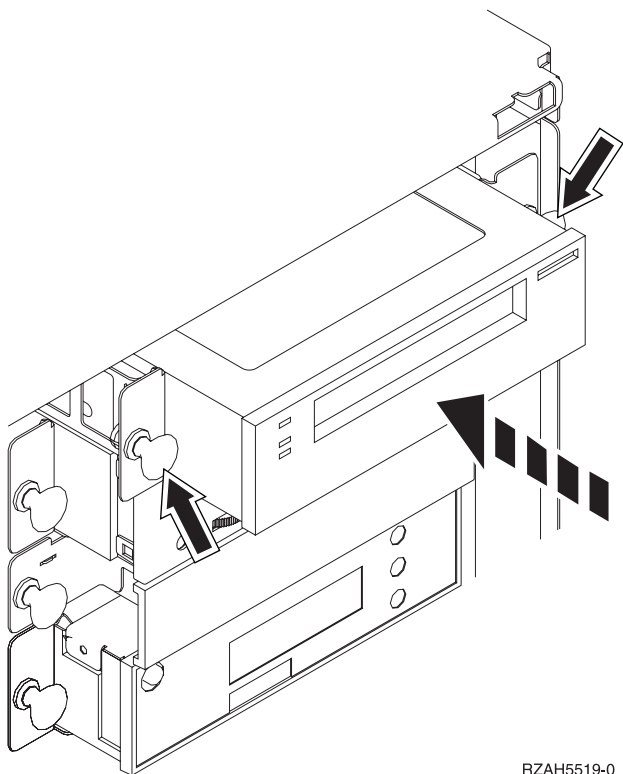


RZAG6510-0

- __ 4. ハンドルで磁気ディスク機構を持たないでください。
- __ 5. 磁気ディスク機構アセンブリーの底面を支えながらシステム内に押し込み、ラッチを閉めて固定します。
- __ 6. 上記の作業をシステム内のすべての磁気ディスク機構について繰り返します。
- __ 7. 磁気ディスク機構のカバーを取り付けます。
- __ 8. 次のステップに進みます。

テープ、CD-ROM、DVD 装置の取り付け

- __ 1. 装置を前にスライドさせて、システム装置に取り付けます。コントロール・パネルの上のフィルター・ブランクを取り外さなければならない場合があります。
- __ 2. 装置の背面に、信号ケーブル (大きいコネクター) と電源ケーブル (小さいコネクター) を差し込みます。
- __ 3. システム装置フレームに装置を固定している 2 つのラッチを、止まるまで押し込みます。



RZAH5519-0

__ 4. 上記の作業を、すべての取り外し可能メディア装置について繰り返します。

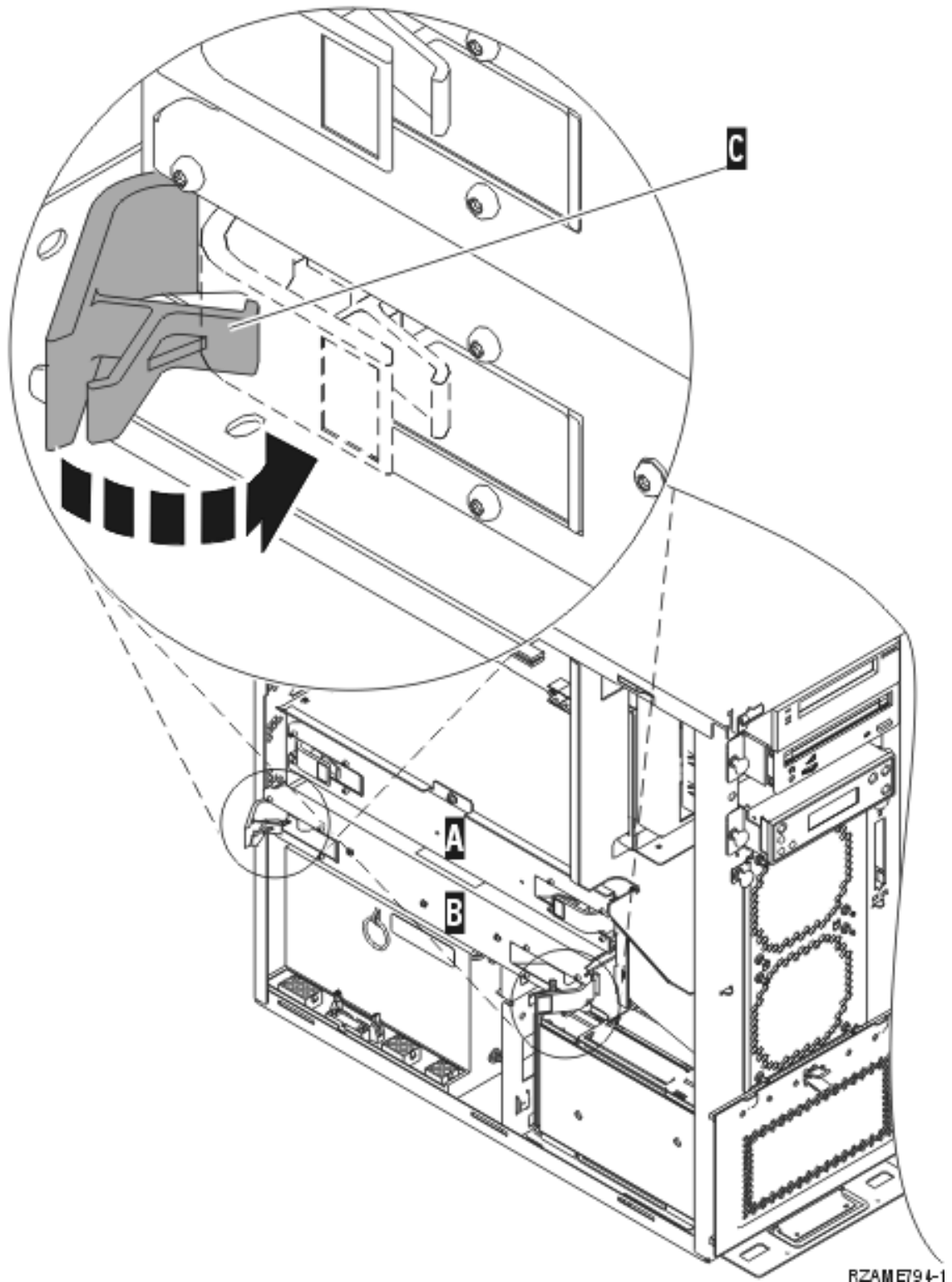
プロセッサ・アセンブリーの取り付け (モデル 270 のみ)

__ 1. 以下の手順でプロセッサ・カード・アセンブリー **A** を取り付けます。

__ a. カード・アセンブリーをシステム装置に挿入します。

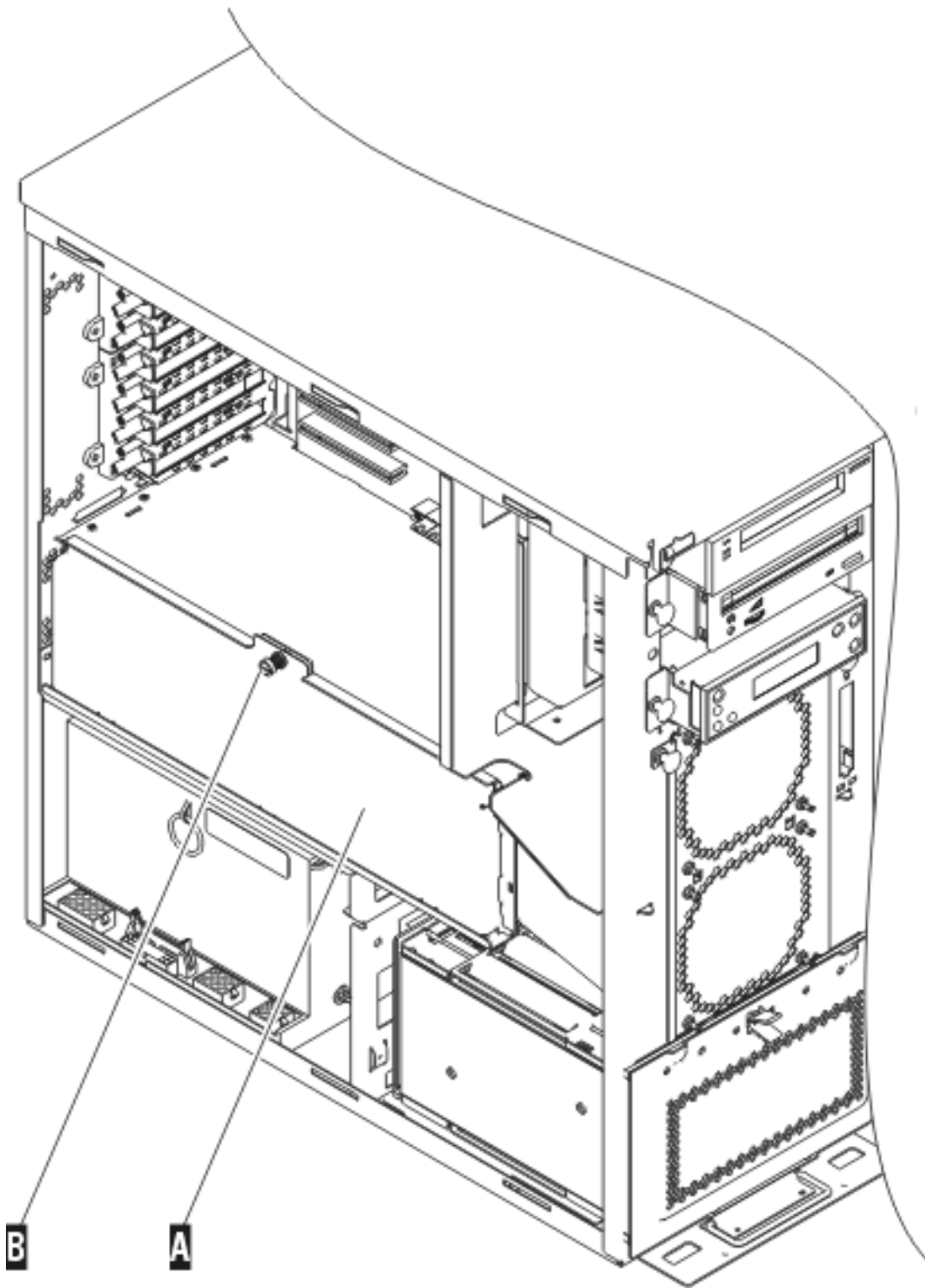
__ b. カードの両端のラッチを同時に押します。

__ c. カード・アセンブリーがそれ以上システム装置に押し込めなくなったら、ラッチを閉じます **C**。



RZAM E79 4-1

__ 2. アクセス・カバー **A** を取り付け、 **B** を押し入れます。



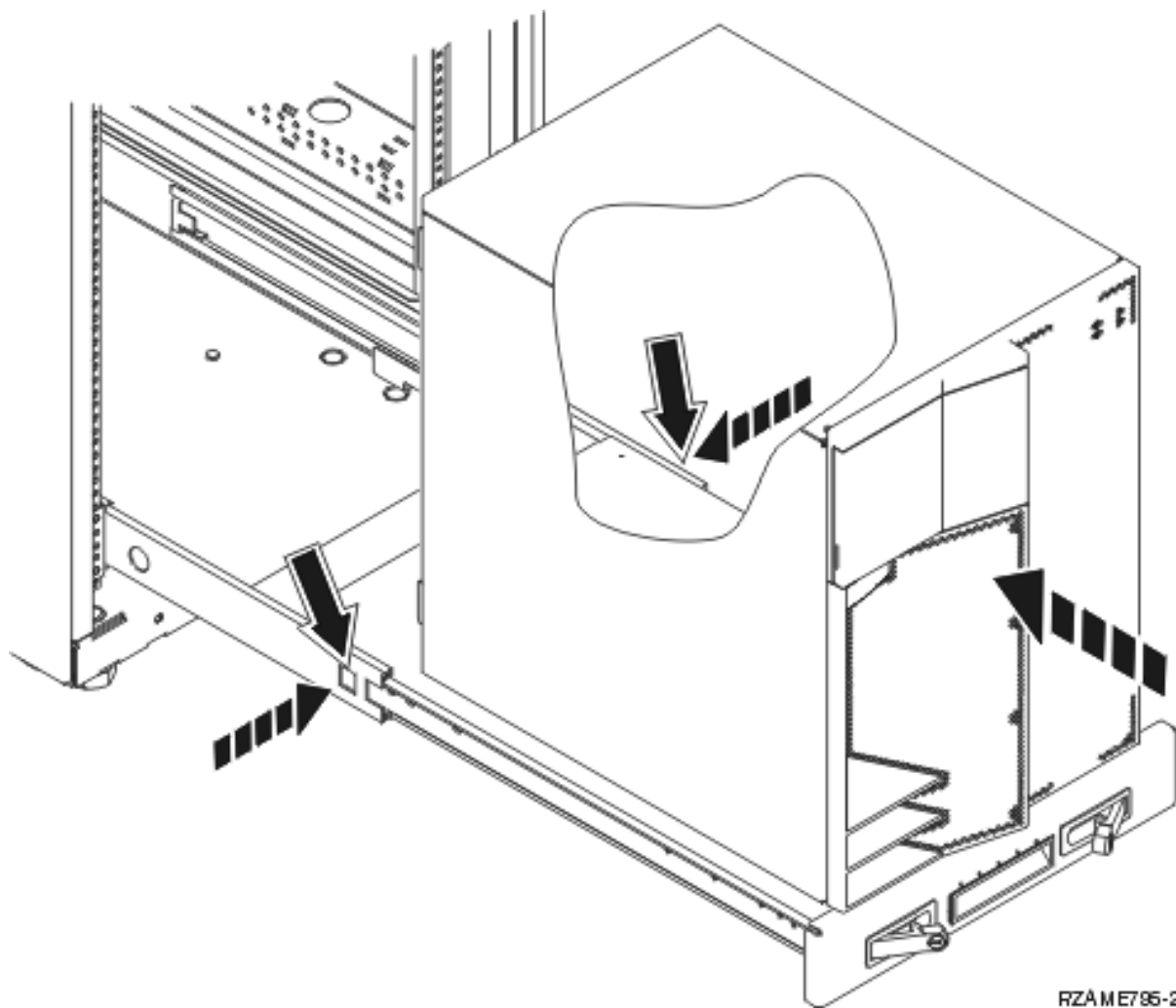
RZAME763-1

__ 3. 上記の作業を、すべてのプロセッサ・カード・アセンブリーを取り付けるまで繰り返します。

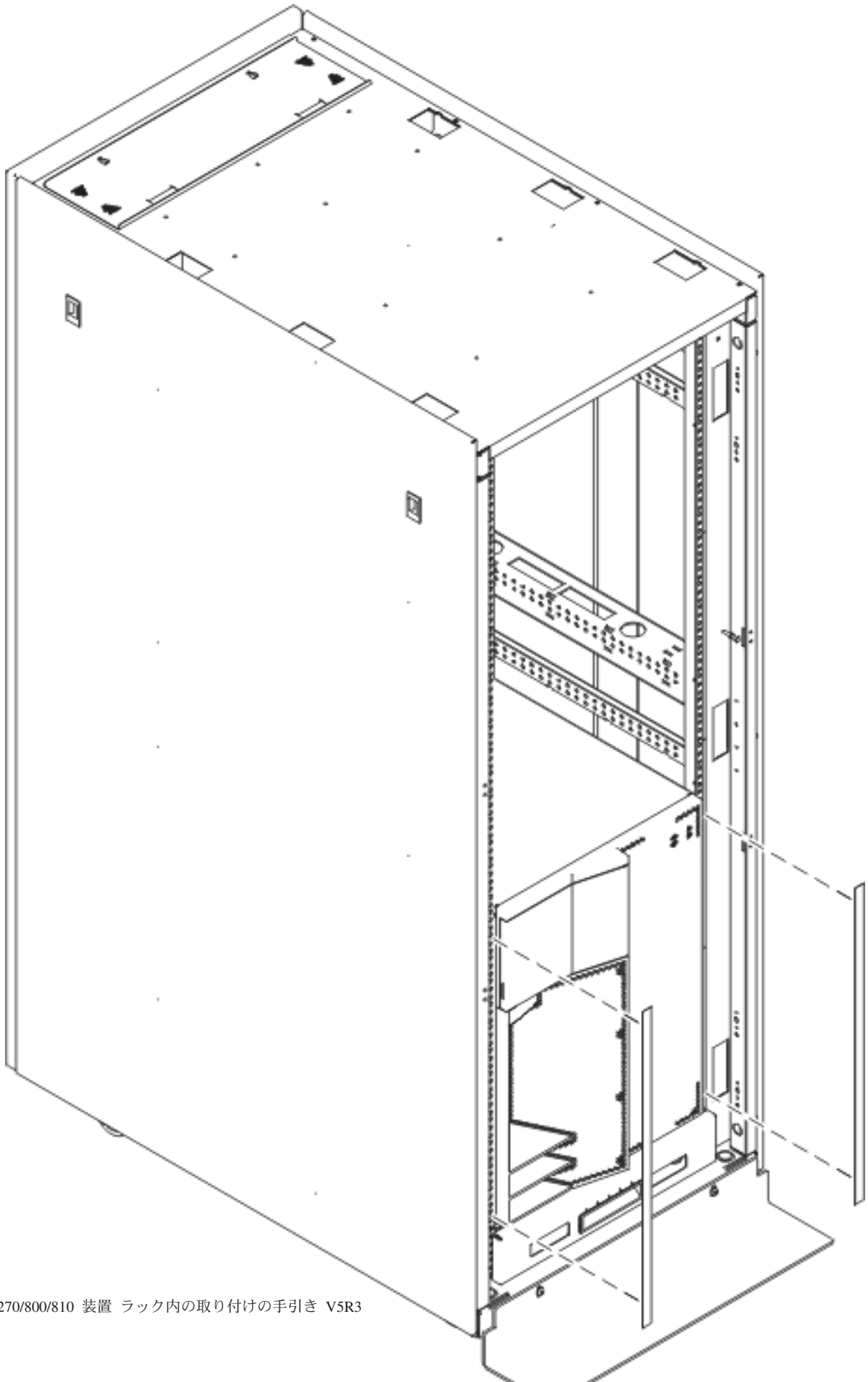
カバーを取り付ける

前面カバーと側面カバーを取り付けます。

- __ 1. 両側面のカバーを取り付けます。
 - __ a. 背面で、左側のカバー (前面から見て) につまみねじを取り付けます。
 - __ b. 背面で、右側のカバー (前面から見て) にスロット保持ねじを取り付けます。
- __ 2. 前面カバーを取り付けます。
- __ 3. 拡張シェルフ・レール上でスプリング・ラッチを押し、シェルフを中にスライドさせます。



- __ 4. シェルフ・ラッチを閉じます。
- __ 5. 空の空間にフィラー・パネルを取り付けます。
- __ 6. 装置の各側にある穴に黒色のカバー・ストリップをかぶせます。



__7. ラックをアンパックしたときに外したラック・トリムを側面と上面に取り付けます。

ラック取り付けの完了

新しいシステム装置の取り付けが終了したら、システム装置に付属の「はじめに」指示に従って最終的な設定を行います。いくつかの操作はすでに実行済みの場合があります。

既存のシステム装置の取り付けが終了したら、以下の作業を行います。

- __1. システム装置の電源コードを差し込みます。
- __2. 印刷装置や表示装置などの電源コードを差し込みます。
- __3. システム装置、および接続されているすべての装置の電源を入れます。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書は、本書で指定された機械を保守または修理する目的で、ハードウェア・サービス営業員が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、本書で指定された機械の操作または計画の目的で、お客様営業員が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Application System/400

AS/400

e (ロゴ)

Freelance

IBM

iSeries

Lotus

Operating System/400

OS/400

WordPro

400

MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan